

『ファウスト』脚注の試み（5）

STUDIERZIMMER（1）

書齋（1）（Vers 1178—1529）

渡 辺 信 生

1800年に書かれ、1808年に印刷された。Goethe an Schiller am 16. 4. 1800 : „Der Teufel den ich beschwöre gebärdet sich sehr wunderbarlich.“ (Reclam). 復活祭の日曜日から月曜日にかけての夜。最初と同じ円天井の狭いゴシック風の部屋。Faust は散歩の途中で、自分自身と仲直りする気分になる。しかし、Mephisto、つまり自分の andere Natur の潜んでいるむく犬を連れ帰る。(Endres).

1178—85. 1194—1201. この二つの規則正しい抒情的な詩節は、Faust の落ち着いた気分の特徴を示している。他方、Mephisto によるこの規則正しいリズムの妨害は、この二つの詩節の間に挿入された不規則な詩行、V. 1186—93、1202—09によって比喩的に表現されている。(Heinemann).

1178. Aue — grüne weide, grünes feld, ackerfeld. (Grimm). Wiesengrund. (GWb). 現在完了。

1179. Die — 関係代名詞 4 格。先行詞は Feld und Auen.

1180f. Mit の前に eine tiefe Nacht を先行詞とする関係代名詞 die を補う。この die は weckt の主語。(Schröer). ahnungs-vollem, heiligem Grauen — 不吉な、神聖な畏怖の感じ。(Thomas). die beßre Seele — 次行以下が示しているように、激情的な行為によって掻き乱されることのない魂。(Trend.). beßre — bessere. 倫理的な意味で善い方の魂。

1182. Entschlafen — zur Ruhe kommen. しずまる。(Fischer). 現在完了。nun wilde — die wilden の方が適切だろう。散歩の途中で Faust にはすでに、人間と神に対する愛が芽生えてはいたものの、絶望と圧倒的な衝動に心を奪われていたのである。vgl. V. 1064—1099、1110—1125。(Düntzer).

1184. Es — 形式上の主語。真の主語は die Menschenliebe — Liebe zu den

Menschen. (Trend.). reget — regt.

1185. Die Liebe Gottes — Die Liebe zu Gott. 厳密にキリスト教的な意味ではなくて、極めて心情的な意味。Spinoza の „amor dei intellectualis”、即ち、Spinoza 的な思考に於ける、一切を包括する無限の実体として理解される、神的なものの現象に対する「精神的な」関心。従って、Spinoza の „Deus sive natura” (die Natur selbst ist Gott) は、Faust の考えを理解するには決定的な意味を持つ。(Lange).

1178—85. Faust の独白は、強弱が規則的に交替する Jambus の Vierheber の詩行で、カデンツは女性韻と男性韻が交替する Kreuzreim である。この詩節はもちろん Liedverse と見なしてはならない。しかし詩行の内容も、すみずみまで磨き上げられた詩行の韻律も、宗教的なものにまで到達している Faust の特別な気分を示している。vgl. etwa V. 1184f.:

Es reget sich die Menschenliebe,
Die Liebe Gottes regt sich nun.

この関連に於て „Prolog im Himmel” の大天使たちの神を賛える詩節が、同じ韻律の構造を持っていることも注目されよう。(Ciupke).

1186—93. むく犬が寝そべるように命じられた Ofen のうしろは、Pfitzer の Faust 本や、Christlich Meynender の本に伝えられているように、むく犬のあとからの変身と出現の場所でもある。更に初期 nhd. や、また現在でも地方によっては、Ofen と壁の狭い場所を Hölle と呼んでいる。この Ofen 自体は民間信仰では、色々な Geister や Dämonen の住処であり、昔から魔法の場所であった。(Arens).

1186. Sei, renne — Pudel に対する命令法。神聖な事柄が話題になる度に、むく犬が唸るのに気付いて言う。(Schröer). むく犬の唸り声によって、不満の目覚めが象徴的に暗示されている。(Endres). hin und wieder — hin und her. この行と V. 1190 は、交替する Taktfüllung による、より自由なリズムである Fünftakter である。(Arens).

1187. An der Schwelle ... hier — Was schnoperst du hier an der Schwelle? schnopern — (seit Beg. des 18. Jhdts.) = くんくん臭いを嗅ぐ。vgl. V. 4321f. (Fischer). むく犬が落ち着かないのは、Faust の宗教的な内省の言葉を聞いた Mephisto の不快感に基づくのではなくて、敷居の Drudenfuß を確かめようとする Mephisto の関心に基づく。vgl. V. 1395. (Lange).

1188. Lege dich ... nieder! — 命令法。sich nieder|legen.

1191. ergetzt — ergötzt. 現在完了。
1192. So — 2行上の Wie を受ける。nimm — 命令法。この nimm は = annehmen. (Grimm).
- 1186—93. むく犬に邪魔されて、Faust は交差韻によって結ばれた Knittelvers 風の詩行(1186—93)に移る。それは引き続き前の節と同じ韻律構造の8行の詩節に移行して、同様に Faust の高揚した、荘重で宗教的な気分を表現するためである。(V. 1194—1201.). (Ciupke).
- 1194f. Zelle — privatgemach. (Grimm). Faust の書斎。以前は Kerker, Mauerloch (V. 398f.) と言われて、ランプは freundlich に燃えずに Rauch を出していた (V. 416). (Trend.).
- 1196f. Dann — 2行上の wenn を受ける。wird's — wind es. es — 非人称主語。(…の中が) 明るくなる。Herzen, das — 先行詞と関係代名詞。sich selber kennt — すべての哲学の要である Socrates の「汝自身を知れ！」という命令文を思わせる。(Heffner).
- 1198f. Vernunft — 経験による論証を借りずに、反省によって真理に到達するという知の力を意味する、と理解してよいだろう。(Heffner). Vernunft という言葉を Faust が用いるのは、ここだけである。(Arens). Hoffnung (fängt) wieder an. an|fangen, (et.) zu tun. Hoffnung — das Göttliche を捉えることができるという希望。(Königs).
- 1200f. hin|sehnen — sich nach etw Geistigem, nach best Lebensinhalten sehnen; im räuml Bild od mit übertr Raumvorstellung. (GWb). nach des Lebens Bächen — nach den Bächen des Lebens. 生命の泉から流れ出る小川。(Endres). nach des Lebens Quelle — nach der Quelle des Lebens. 生命の泉 = Göttliche selbst. (Endres). des Lebens Bächen という言葉は聖書にはないが、ゲーテの時代の敬虔な詩人たちによって広く用いられた。des Lebens Quelle の方は聖書に起源がある。この二つとも17・18世紀の神秘主義的で、敬虔な詩人たちのお気に入りの言葉であった。従ってこれらの言葉は、聖書の真理の啓示に言及しているということを、いささか信ずる理由がある。(Heffner). vgl. Psalm 36, 10 : „Denn bei dir ist die lebendige Quelle.“ Jeremia 17, 13 : „den Herrn, die Quelle des lebendigen Wassers.“ (Schmidt).

ここで Faust が告白しているのは、一部冒頭 („Nacht“) の語彙に属する言葉が明白に示しているように、現実よりも願望である。即ち、Seele, Herz,

Busen, Trieb, Quelle などが繰り返されていて、ここでもすべては感情であるということを示している。(Arens).

1202-04. Knurre — 命令法。Faust の満ち足りない欲求不満の本質である Mephisto = Pudel は、das Göttliche に依存したこの調和を望まない。むく犬の唸り声は、今や目覚めんとする Faust の心の葛藤を象徴的に表している。(Endres). ここからかなり興奮した Anapäste が登場する。Knurre nicht と V. 1204, -60 の冒頭で。(Düntzer). V. 1202-23 の韻律はかなり不規則になる (freie Hebungs- und Senkungszahl, freie Reimstellung). (Ciupke).

Die — 関係代名詞。先行詞は die heiligen Tönen. Will ... nicht passen — just isn't suited to. 全く相応しくない。(Heffner). zu et. passen. Faust の „ganze Seele" を包んでいる die „heilige Töne" は、復活祭の天使の合唱のように、外部から神の予感として彼に訪れるもので、彼の内面から生ずるものではない。(Arens).

1205. Wir sind ... — Wir sind (es) gewohnt, daß. 2行下の Daß も同じ。Menschen にアクセントがある。対比されているのは、V. 1209の Hund. (Reclam).

1206. Was — 不定関係代名詞。sie — die Menschen. この詩行は Reimpartner がないので、韻律の専門用語では „Waise" と呼ばれる。(Ciupke). Reimpartner がないのは、人に理解されないことは、„ungereimt" で表現されるということ。(Gaier).

1207f. sie — die Menschen. dem Guten und Schönen — das Gute und Schöne の3格。善と美。関係代名詞 Das の先行詞。ihnen = die Menschen. vor et³. (gegen et.) murren.

1209. Will? — したいのか。es — 2行上と4行上の daß 文を受ける。wie sie — wie die Menschen. beknurren — durch Knurren als mißfällig bezeichnen. (Fischer). der Hund, wie sie — この話しかけによって Faust は、犬と犬にひそむ悪魔の擬人化に取りかかる。(Gaier).

1210. Faust の調和のとれた気分は消えてしまう。彼は自己分裂の状態から、内面の統一へと思うままに自分を救い出そうと試みる。理性的に新約聖書と取り組むことによって — その翻訳によって簡単に — 啓示に近づけると思う。(Endres). „Faust" の中で最も奇妙な箇所の一つ。平凡な表現と不自然な移行による奇妙さである。(Trend.). bei dem besten Willen — どんなに努めても。

1211. quillen — quellen の nebenform. (Grimm).
1212. der Strom — 心から溢れ出る満足感を、泉から湧き出る流れに喩えたもの。この Metapher は V. 1200f. の des Lebens Bächen, des Lebens Quelle に続く。(Heffner).
1213. Und wir — Und (warum müssen) wir. (Schröer).
1214. ich — 前行の wir との対照は顕著。むく犬の妨害にも拘らず、書齋に戻ったときの落ち着いた気持を取り戻そうとする心の動揺が、wir と ich の使用に現れている。wir (uns, unser) と man で 8 箇所、ich (mir, mich) は 9 箇所、聖書の翻訳にかかった V. 1224 以下では ich だけになっている。(Arens).
1215. Mangel — Entbehrung. (Fischer).
- 1216f. 聖書を読むことも、神と一致する道であると言われている。(Buchwald). もちろんここは V. 765 と矛盾する。(Schröer). schätzen — achten, hochachten, wertschätzen. (Grimm). これによって地上的なものに対する独占的な反対概念と、キリストに於ける神の啓示が意味されているのではない、ということは、Faust の新約聖書の言葉の翻訳の試みによって、一段と明らかになる。その際にも Faust の „vom Geiste recht erleuchtet" (V. 1228) は、この言葉が述べているように見えることを、即ち、聖霊による啓示を、もう殆ど意味してはいないだろう。ゲーテは Zelter 宛書簡の中で次のように書いている (14. 11. 1816) : Luther erblicke „in dem alten und neuen Testament das Symbol des großen sich immer wiederholenden Weltwesens", so daß „das Luthertum mit dem Papsttum nie vereinigt werden kann, der reinen Vernunft aber nicht widerstrebt, sobald diese sich entschließt, die Bibel als Weltspiegel zu betrachten; welches ihr eigentlich nicht schwer fallen sollte." vgl. V. 1198 : „Vernunft fängt wieder an zu sprechen." (Schöne).
- 1218f. Die — 関係代名詞。先行詞は Offenbarung. würdig — ansehnlich, schätzbar, wertvoll. (Fischer). 啓示は昔は新約聖書に記録されていた。啓示はゲーテにとっても Faust にとっても、いわゆる啓示ではなくて、あらゆるものの中で最も価値のある、尊く美しいものにすぎない。(Arens).
1220. drängt's — drängt es. drängen = vorwärtstreiben. (Fischer). es は後半の zu 不定詞句と、以下 3 行の zu 不定詞句を受ける。Grundtext — ギリシャ語の原典。(Erler). 2 行下の Das heilige Original.
1221. Mit redlichem Gefühl — treu, ohne Eigensucht, der Stimme seines

Innern folgend. (Düntzer). einmal — jetzt. (Fischer).

1223. In mein geliebtes Deutsch — ここは言葉を軽蔑し、愛するものは何もない Faust とは全く矛盾している。vgl. V. 1328. (Arens). ギリシャ語の „Grundtext" からの新約聖書のドイツ語訳は、14世紀以来存在した。Luther 以前にも、すでに14種類のドイツ語の聖書の版本が存在した。(Lange). der Christlich Meynende によれば福音書のうちで、このヨハネによる福音書だけが、Faust に読むのを禁じられている。(Arens).

1223+ Volum — lat. volumen „Wälzer". umfangreiche Schriftrolle, dickes Buch. (Königs). auf|schlagen. schickt sich an — あとに前行の zu übertragen を補う。sich an|schicken — sich vorbereiten. (Fischer).

1224. Geschrieben steht — Es steht geschrieben. Im Anfang war das Wort! — ヨハネによる福音書の最初の文句。Logos は本来 Wort の意で、ギリシャ哲学にとっては、die sich selbst aussprechende Vernunft を表わす言葉、ストア哲学にとっては Weltgesetz を、キリストの時代のユダヤ人にとっては、das göttliche Selbstbewußtsein als Quelle und Träger der Ideenwelt を表わす言葉である。Logos のうちに永遠の存在が反映されていて、Logos の力によって世界が創造され、支配される。Logos は神と物質的な自然との仲介者である。従ってヨハネに於ては Logos という言葉は、神の似姿に、あらゆる事物の生命に、人間の光になる。Logos はキリストのうちに、地上に於ける個人の姿を獲得したのである。

Faust は唯一相応しいルターの訳語に取り組む。なぜなら Wort という訳が、Logos の概念の曖昧さと広さを損なわないからである。しかし Logos を解説しようと努めながら、存在の根本原理についての自己の見解を、ヨハネのせいにしてしようと試みていることは、もちろん容易に推測されることである。Faust は本来の意味に於ける Logos から次第に遠ざかりながら、„That" という語によって結局存在の根本原理に到達する。即ち、永遠に生成する神、人間のうちなる神的なものをも証明してみせる行為のうちに、自らの本質を表現する神に辿りつく。

Faust はこの訳語を選ぶことによって、結末に示されているように、間違いなくこの世に於ける自らの課題を認識することになる。Faust は暗い衝動から、自らの課題の確固たる意識へ到達しようとしている。しかし Mephisto は Faust を横道に引きずり込むのに一切の努力を傾注しているので、Faust の考えを福音から自分に向けさせようとして、自分の姿を奇妙

に変え始める。(Witkowski).

ストア哲学とアレクサンドリアの哲学から、新約聖書に入った Logos という言葉は、同時に Wort, Begriff, Vernunft を意味している。すでに Herder はこの Urbegriff に当たるドイツ語がないのを嘆いているが、1775 年の新約聖書についての注釈の中では、Gedanke! Wort! Wille! Tat! Liebe! などと検討している。(Reclam).

Logos は Wort と翻訳されると、実際には誤りである。すでに紀元前 5 世紀のソクラテス以前の哲学者たちにとっては、Logos は „waltende Vernunft" として理解されていた。プラトンは「イデア」として理解していた。ユダヤ系アレキサンドリアの宗教哲学に於ては (z. B. Philon)、Logos は „ewig göttlichen Gedanken" を意味している。キリスト教会では、4 世紀によく Logos の教義が普通に行われるようになった。(Endres).

ケセン語ではヨハネの最初の 2 節は、次のように訳されている：初めに在ったの^ア神様の思いだった。思いが神様の胸に在った。その思いこそ^ア神様そのもの。初めの初めに神様の胸の中に在ったもの。

1225. stocken — im Reden od. Schreiben innehalten, damit zögern. (Fischer).
fort|helfen — weiter|helfen. (Heyne).

1227. es — das Wort.

1228. Geist — genius als helfer, schutzgeist. 守護霊。(Grimm).

1229. Sinn — Absicht, Plan, Verstand. (Königs). schöpferischer Gedanke.
(Fischer). 英訳では Mind, Sense.

1230. Bedenke — du (Faust) 自身に対する命令法。

1231. Daß — Damit.

1232. es ..., der — 先行詞と関係代名詞。wirken — durch Tätigkeit hervorbringen. (Fischer). vgl. W. M. Lehrjahre, 8. Buch, Kap. 5 : „Es sind nur wenige, die den Sinn haben und zugleich zur Zeit fähig sind. Der Sinn erweitert, aber lähmt; die Tat belebt, aber beschränkt." (Erler).

1233. Es sollte stehen — Es sollte (geschrieben) stehen. Es は 4 行上の Im Anfang war der Sinn. sollte — 接続法 II。控え目な主張。すべきであろう。

1234. indem — zu der Zeit da, während. (Fischer).

1235. was — etwas. bei et³. bleiben — 固執する。英訳では : „Something warns me not to keep it." (Atkins).

1236. Geist — vgl. V. 1228. Auf einmal — mit einem Male. (Fischer). Rat — Abhilfe, Ausweg. 良い考え。(Fischer).

1237. getrost — beherzt, furchtlos, unverzagt, entschlossen. (GWb). Tat — Tat は意識を持った存在を前提とする。しかし Faust がここでも個人的な創造者としての神の行為を、信じているかどうかは重要ではない。というのも Faust はすでに V. 414f. で、それを認めているからである。これに反して Faust が自己の要請に等しい、目下の個人的な告白をしていることは明らかである。

何れにせよ Faust は、今までは行為の人ではなくて、受け取る人 (Erfahrender)、悩める人 (Erleidender) であった。Faust は自らの方向を定めることになる Tat という言明によって、この言明が言葉に留らない限りは、今までの生活から、未知の新しい生活への第一歩を踏み出すことになる。Tat は、それを通り抜けて Faust が Mephisto との賭に、以前から憧れていた人間の生活に、通じる門である。(Arens).

Faust にとっては「最初にあったもの」が問題なので、想像の物語 (1. Mose 1) の意味に於ける „Tat" に辿りつく。(Trunz). 鷗外は、この業 (Tat) と云ふ詞を神の業と介して、舊約聖書の初に戻ろうとするのは誤である。福音の趣意から見れば、クリストの業、ファウストの趣意から見れば、ファウストの業でなくてはならない。即ちファウストの事業欲であるとしている。(ファウスト考)。その他この Tat や Logos の意味については、さまざまな説がある。

1224—37. Jambus の規則正しく交替する Madrigalvers で、対韻が一貫している。これは Faust が聖書に取り組んでいて、心の落ち着きを取り戻したことを強調する。(Ciupke).

1238. Soll ich ... teilen — Wenn ich ... teilen soll. soll — どうしても (この部屋に二人で) いるのなら。et. mit jm. teilen.

1239. laß — 次行の laß と共に、Pudel に対する命令法。Heulen — 前行の teilen と韻を踏む。(Heffner). Pudel に関しては、ヨハネによる福音書の初めの文句は、呪文や悪魔祓いの魔法の Text として用いられた、という事実が加わる。従ってそれと知らずに Faust は、Pudel に呪文を唱えることになる。むく犬に潜む Mephisto は、変身によってこの呪文に答える。(Gaier).

1243. Einer — 不定数詞。我々二人のうちのどちらか一人。

1244. die Zelle meiden — leave the room. (Thomas).
1245. auf|heben. 破棄する。Gastrecht — Recht des Gastes gegen den Wirt und umgekehrt. (Heyne). von wirtes seite, das gastrecht üben. (Grimm).
英訳では：„I'm sorry to be no longer hospitable." (Atkins).
1246. hast freien Lauf — (du) hast freien Gang.
1247. Aber was muß ich sehen! — But what do I see! (Atkins).
1248. natürlich — auf naturgesetzlichem Wege. (Fischer).
1249. Schatten — als etwas unkörperliches, unwesenhaftes, im gegensatz zur sache selbst. 幻影、まぼろし。 (Grimm). ist's — ist es. es は二つとも 前行の das. 眼前の現象。
1250. Wie wird ... — ゲーテは呪文の場を、大げさに誇張している通俗的な伝承に従っている。 (Lange).
1251. Er — 前行の mein Pudel. mit Gewalt — gewaltig, mächtig, sehr. (Sanders).
1252. eines Hundes Gestalt — die Gestalt eines Hundes.
- 1254f. aus|sehen. Nilpferd — Behemoth. vgl. Hiob, 40, 15—24. (Gaier). 18世紀にはまだ異常に固くて強い歯を持つ恐ろしい怪獣で、子供や大人さえも食らうと想像されていた。 (Schöne). er — 3行上の Er と同じ。 Gebiß — die zähne als ganzes. (Grimm).
1256. du bist mir gewiß — vgl. Etwas ist mir gewiß. ある物が確かに私の手に入る。従ってここは、汝は確かに私の獲物になるの意。 (青木)。 Faust は Magic に精通しているので、最初の驚きがすぎると、Pudel の恐ろしい姿を恐れぬ。 (Endres).
1257. halbe Höllenbrut — halb teuflisches Wesen. (GWb). semi-infernal progeny. (Thomas). Höllenbrut — Ausgeburt der Hölle. (Fischer).
1258. Salomonis Schlüssel — Talmud によれば、ソロモン王は中世第一の降霊術師と見なされていたので、Zauberbücher は Salomonis Schlüssel (Claviculae Salomonis) と呼ばれることになった。呼びかけられた Geister は、元来は決して地獄の Dämonen ではなくて、むしろ天国の善い Geister か、或いは善くも悪くもない Naturgeister であった。この Naturgeister は、それぞれが vier Elemente (Feuer, Wasser, Luft, Erde) のどれか一つに帰属することによって、Salamander, Undene (od. Nymphen, Sirenen), Sylphen (Luftgeister), Kobold (Gnomen, Berggeister, Pygmäen) になるの

である。FaustはこのElementargeisterを、半ば地獄に属するものとしか見ていない。(Loeper).

実のところ „Schlüssel Salomonis" には、本来のTeufelの呼び出しは書かれてはいない。Elementargeisterは人間に服従しなければならない、ということをおしやうしているにすぎない。(Witkowski).

FaustがここでSalomonis Schlüsselを利用して、Elementargeisterに対する呪文から、Höllengeisterに対する呪文へと移ることによって、Faust自身——Mephistoから追立てられることなしに——白魔術から、のちに自らの災になる黒魔術への道を進むことになる。だがこの災いをFaustは、冒頭の言葉 „Fürchte mich weder vor Hölle noch Teufel" (V. 369)によって、すでにあり得ることと見なしていたのである。(Trunz).

1259. = Drinnen ist einer gefangen. Drinnen = darin. (Fischer). einer —— 不定数詞。名詞的用法。状態受動。

1260. Bleib(e)t —— ihrに対する命令法。haußen —— hier außen. (Fischer).

1261. Wie im Eisen der Fuchs —— Wie der Fuchs im Eisen. Eisen —— Fangeisen, eiserne Falle. 触れるとパタンとしまる鉄製の罠。(Fischer).

1262. Höllenluchs —— tierhafte Erscheinungsform des (tückischen) Teufels. (GWb). als ehrende Bezeichn. der Höllengeister für den klugen Mephisto. (Fischer).

1263. gebt acht! —— ihrに対する命令法。次行のSchwebetも同じ。acht|geben.

1264f. = Schweb(e)t hin und wider (=her). (Fischer). widerはwiederの版もある。Auf und nieder —— (Schwebet) auf und nieder. これは何か重大なことを待ち受けている、霊たちの落着かない動きである。vgl. V. 4401. (Trend.).

1266. = Und (ihr werdet sehen:) er hat sich losgemacht. (Gaier). 現在完了。

1267. Könnt ihr ihm nützen —— Wenn ihr ihm nützen könnt. nützen —— 次行のsitzenと押韻する。(Heffner).

1268. Laßt ... sitzen —— ihrに対する命令法。sitzen|lassen.

1269. jm. et. zu Gefallen tun. 或人のために或事をする。viel —— vieles.

1259—70. この霊たちはMephistoの部下と考えられる。途方に暮れたMephistoを助けるためにやってきたけれども、同じ捕虜の身にならないために、敢て研究室には入らない。(Witkowski). 3回聞えてくる霊の声(V. 1259ff., 1447ff., 1607ff.)は、Mephistoの世界との関わりの点で、ギリ

シャ悲劇の合唱に似た役割を果たしている。(Lange). 恐らくこの場の興奮した雰囲気を維持するために、ゲーテはこの霊たちの歌を、押韻した自由詩行で書いたのであろう。(Ciupke).

1271. zu begegnen dem Tiere — (um) dem Tiere zu begegnen = um dem Ungeheuer zu begegnen (= entgegentreten). (Schöne).

1272. Spruch der viere — Beschwörung der vier Elementargeister. ゲーテの創作。(Königs). Faustは先ず一人ずつ Elementargeister に呼びかける。効果がなければ、これは悪魔だということになる。(Trunz). Viere と大文字の版もある。語尾の e は「四つのもの」の意。また Tiere との押韻のため。

1273. Salamander — Feuergeist. soll — Salamander に対する Faust の要求。英訳では: „Glow, Salamander!“, „Salamander shall glow“ など。

1274. Undene (soll) sich winden. Undene — Wassergeist. この霊がこの動物の中に潜んでいるのなら、うねったり、くねったりして、正体を現わすがよい。V. 10712では Undine. (Schröer).

1275. Sylphe (soll) verschwinden. Sylphe — Luftgeist. verschwinden — in Luft zerfließen. (Schröer).

1276. Kobold (soll) sich mühen. Kobold — Erdgeist. (V. 482の Geist der Erde ではない)。懸命な振舞いによって、自分の存在を知らせる。これらの名前をゲーテは、Paracelsus の著作で知った。(Schröer). Kobold = neckischer Berg- od. Hausgeist. (Fischer). vgl. V. 2111. sich mühen — arbeiten. (Arens).

1277—82. Faust は Elementargeister に関する自分の知識を自慢して独白する。(Thomas).

1277. sie — 次行以下 3 行の Die Elemente, Ihre Kraft und Eigenschaft を指す。kennte — 接続法 II。非事実の假定。„Zauberlehrling“ のように、その性質と力を正確に知っている者だけが、霊を支配することができるということ。(Trend.).

1278. Die Elemente — Die (viere) Elemente.

1281f. Wäre kein Meister / Über die Geister — Der würde über die Geister nicht herrschen. Wäre — 接続法 II。仮定的結論。

1283—91. この 9 行のうち 2 行ずつが、それぞれの Elementargeister に属している。最後の行はこの „Tier“ 自体に向けられている。(Trend.).

1283 Verschwind(e) — Salamander に対する命令法。Flammen は 3 格。炎と

なって。

1284. この Salamander には脚韻がない。他の呼びかけられた 3 人の霊たちには、韻を踏んだ詩行がある。(Düntzer).

1285. = Fließe rauschend zusammen! fließe は Undene に対する命令法。
zusammen|fließen.

1287. Leucht(e) — Sylphe に対する命令法。in Meteoren-Schöne — schön wie ein Meteor. (Schröer).

1289. Bring(e) — Incubus に対する命令法。bringen — darbringen.

1290. Incubus — Geist der Erde は V. 1276 では、Kobold と呼ばれている。これはときどき家事を手伝う Koblode, Zwerge, Wichtelmänner などが、Element der Erd に属しているからである。しかし Incubus はそれに相応しいとは言えない。なぜなら Incubus は 16・7 世紀の文献では、女を誘惑する悪魔、悪夢の中で人の胸に坐る夢魔 (Alp) と見なされているからである。(Trunz).

Incubus を用いたのは、Schluß との Reim のため。(Düntzer). この Düntzer の見解には説得力がない。この悪魔祓いの呪文には、(うっかりやらしたのか、それともわざとなのか、何れにせよ) 欠陥がある。(Schöne). 中断後の 2 度目の呪文では、Salamander は Sylphe のように消えよとか、Sylche は Salamander のように燃えて輝けとか、それぞれの性質が入れ変っている。(Gaier).

1291. Tritt hervor — Zeige dich. 正体を現わせ。hervor|treten. mache den Schluß — mach ein Ende. 結末をつけよ。(Schröer). Pudel の中に潜んでいるかも知れない、四大の霊のどれか一つに呼びかける命令法。(Heffner).

1292. der viere (Elemente).

1294. Es — das Tier. an|grinsen. ここでこの動物の中に潜んでいるのは、無害の霊ではないことが分かる。(Trend.).

1295. jm weh tun. 痛い目に合わせる。現在完了。

1296f. = Du sollst hören, daß ich stärker beschwöre. 話者の意志。お前に聞かせてやる。

1298. du Geselle — Pudel. vgl. V. 1241.

1299. ein Flüchtling der Hölle — ein aus der Hölle Entsprungener, aus ihr Kommender. (Trunz).

1300. So — Dann. sieh — das Tiere (V. 1293) に対する命令法。dies(es) Zeichen — INRI の銘のある十字架像。(lat. Jesus Nazarenus Rex Judaeorum : Jesus von Nazareth, König der Juden). (Erler). vgl. Johannes 19. 19. (Heffner). 恐らく十字架像。„Durchstochene" (V. 1309) は眼に見えねばならないので、Arens や Schöne が推測しているような、魔法の文字の符が問題になっているのではない。Faust は信心深くはないので、キリスト教のシンボルを、自分の魔術のために道具として利用する。(Gaier).
1301. Dem — 関係代名詞。先行詞は dies Zeichen. sie — 次行の Die schwarzen Scharen.
1302. Die schwarzen Scharen — Die mit Teufel und Hölle in Verbindung stehender Geister. (Endres).
1303. auf|schwollen. es — das Tier. 恐怖の余り動物の毛がもう逆立っている。(Endres).
1304. Verworfenes Wesen! — この動物が地獄に所属することを、Faust が明白に認識した言葉。(Endres). verworfen — von gott verstoszen, verdammt: sündig. (Grimm).
1305. ihn — 恐らく十字架の上に、普通書かれている INRI の称号。(Endres). ihn = den Namen des. あとに続くのは以下 4 行の ... Entsproßnen, Unausgesprochenen, Gegoßnen, Durchstochnen. (Trend.).
- 1306—09. 教義によって定められた称号をもつキリストのこと。(Heinemann).
1306. nie Entsproßnen — von Ewigkeit her vorhanden. (Endres). < entsproßnen. 過去分詞の名詞的用法。4 格。vgl. Hebräer 13, 8 : „Jesus Christus, gestern und heute, und derselbe auch in Ewigkeit." (Trunz).
1307. Unausgesprochenen — Christi Bedeutung kann kein Name voll ausdrücken. vgl. Psalm 145, 3 : „Der Herr ist groß und sehr löblich, und seine Größe ist unaussprechlich." (Königs). < unaussprechen.
1308. Durch alle Himmel Gegoßnen — für den allgegenwärtigen Gott. (GWb). < gießen. vgl. an die Epheser 4, 10. (Trend.). alle Himmel — 旧約聖書は Himmel について、繰り返し複数 (schāmajim) で語っている。ラビの教えによれば、上昇する至福の領域として七天があった。vgl. V. 2439. (Arens). 博物学の著作によれば、重なり合う十天があり、最上天の feuer-himmel が神の本来の住所であった。(Grimm).
1309. Freventlich Durchstochnen — den am Kreuze die Lanze des

- Kriegsknechtes durchstieß. (Trend.). vgl. Evangelium S. Johannis 19, 34. (Schröer) < durchstechen. この5行の英訳は： „Can you read this token? / Him that never was create, / Him whose name must not be spoken, / Who pervdes the universe, / Though transpierced by lance accursed." (Atkins).
1310. gebannt — < bannen = festhalten, zaubern, bezwingen. (Grimm). (呪文で) 封じ込める。呪縛する。
1311. es — das Tier, das verworfene Wesen. 次行と2行下の es もおなじ。
1312. an|füllen.
1313. = It's now about to melt away as mist. (Atkins).
1314. Steige ... hinan! — es (das Tier) に対する命令法。次行の Lege dich も同じ。hinan|steigen — (von hier unten) nach oben steigen. (GWb).
Decke = Zimmerdecke. (GWb).
1315. = Lege dich zu den Füßen des Meisters!
1317. versengen — 少しだけ、一部だけ、表面だけ焼く。(Grimm). heilige Lohe — 2行下の das dreimal glühende Licht と同じ。(Schröer). Lohe — flammende od. wallende Glut. (Fischer). 炎を留保している (V. 1377) 悪魔が、聖なる光によって焼かれるという逆説は、結末の所で再び現われる。vgl. V. 11755, 11817. (Arens).
1318. Erwarte — 命令法。2行下も同じ。erwarten — etw abwarten; mehrf im mahnenden od drohenden Imperativ. (GWb).
1319. Das dreimal glühend(e) Licht — 三たび輝く光。Dreifaltigkeit の象徴。ここでゲーテは神性を象徴する、輝く三角形のことを考えているのかも知れない。(Endres). dreimal — die dreimalige Wiederholung bezeichnend; bedeutungs- u geheimnisvoll im Zusammenhang mit Magie, Mythos u Kalt. vgl. V. 1531. (GWb). この場も完全にゲーテの発明であるが、Pfitzer の Faustbuch の呪文の場と比較しても、よく理解できない。確かにゲーテはそこから、個々の点について示唆を受けてはいるが、その改善と不可思議な傾向による、芸術的に完成されたイメージは、全く彼の天才の所産である。(Trend.). dreimal を3倍とする見解もある。英訳では： the triply glowing light, the Thrice-Effulgent Light など。
1321. Die stärkste (Kunst) von. 2行上の Licht.
- 1271—1321. ここでも自由詩行 (Freie Verse)、専ら zweihebig、部分的には einhebig (V. 1284, —86, —88) さえも見出される。(Ciupke).

1321+ tritt ... hervor — hervor|treten. indem — wenn. der Nebel fällt —
— (as) the mist disperses. (Luke). fallen — abnehmen, sich vermindern.
(Heyse). ein fahrender Scholastikus — ein fahrender Schüler,
Wanderstudent. (Königs).

1322. Wozu der Lärm? — Zu welchem Zweck ist der Lärm? Was soll der
Lärm bedeuten? was steht dem Herrn zu Diensten? — was steht zu Ihren
diensten, Ihnen zu dienst? は „was wünschen Sie?“ の höflichkeitsformel.
(Grimm). dem Herrn — euch. 16世紀以来 höflichkeitsform としての直接的
な呼びかけ (herr, mein herr) の代りに、3人称動詞を伴った間接的な
der herr が広まってくる。(Grimm). この最初の言葉で直ちに Mephisto は、
Faust の Diener として自己紹介をしている。(Trend.).

Mephisto がストーブのうしろから姿を現わすと、Faust の興奮は突然終
わる。バランスの取れた調子によって、即ち、Faust 特有の強弱の規則的
に交替する Madrigalvers によって、この Faust の思慮深い落着きと、今ま
での Faust の興奮した調子との相違は、耳に聞こえるほど際立っている。

Wōzū dēr Lärm? wās stēht dēm Hērrn zū Dīenstēn?

それから Faust は Mephisto に順応する。その結果二人はこの場の結末
(V. 1529) まで、Madrigalvers で話す。(Ciupke).

1323. des Pudels Kern — der Kern des Pudels. Faust はむく犬の姿は仮面で
あり、人間の姿が本来の姿であると思う。のちに Mephisto は、人間の姿
は „Mäskchen" (V. 3539) であると言う。(Gaier).

1324. Skolast — ト書の Scholastikus. 遍歴学生はたいてい落第した学生で、
余り評判は芳しくなかった。(Endres). (Ist es) ein fahrender Skolast? Der
Causus — der Fall, der Umstand, daß hinter dem Pudel nichts weiter als
ein fahrender Scholast, d. h. Schüler, stecke. (Königs). 硬いアカデミック
な語。(Arens). Pfitzer の Faustbuch では、悪魔はストーブのうしろから、
最初は人間の顔をした熊になって現われ、それから白髪 of 僧になる。ゲー
テが Mephisto を遍歴学生として登場させたのは、計画されていた遍歴学
生との「論争の場」から恐らく説明されるだろう。(Heinemann).
(Kachel-)Ofen のうしろの狭くて熱い空間は、庶民の間では地獄として表
現されていた。(Gaier).

1325. salutieren — lat. salutare; grüßen, begrüßen. 軍隊言葉。(Grimm).
salutieren という知的な語の選択によって、更に Faust に対する

- Schmeichelei を表わしている。(Arens).
1326. weidlich — wacker, tüchtig, gehörig. (Grimm.) machen — gemacht がふつう。2行上の lachen との Reim のため。(Trendl.).
1327. Wie nennst du dich? — „Fausts Höllenzwang" では、魔法使いが目の前に現われた霊にする最初の問は、„Sage, wer du bist" になっている。(Witkowski).
1328. einen — 不定関係代名詞 einer の4格で、関係代名詞 der と次行の Der の先行詞。das Wort — vgl. V. 1226. むく犬は Faust の言葉に耳を傾けていたのである。(Schöne).
1329. Schein — bloßer Anschein im Gegensatz zum wahren Wesen. (Fischer).
1330. Nur in der Wesen Tiefe trachtet — (Der) nur in die Tiefe der Wesen einzudringen trachtet. (Fischer). 存在の深奥を突きとめようと努める。
1331. Bei euch, ihr Herrn — in case of you (infernal) gentlemen. (Thomas).
Herrn — Herren.
1332. lesen — erkennen. (Fischer). 霊の世界では名前は本質を表わすので、名前と本質、名前と人物が一致するという確信、名前を知るとその人を支配する力を手に入れるという信仰は、もともと一般に広がっていて、民間の迷信と同じように旧約にも出ている。Jesaia 43, 1: „nun spricht der Herr : ich habe dich bei deinem Namen gerufen; du bist mein." (Arens).
1333. Wo — 関係副詞。2行上の Bei euch を受ける。es — das Wesen.
1334. Fliegengott — ヘブライ語の Beelzebub のドイツ語訳。Divan にも出ている。(Bd. 2. S. 118). Faust は Mephisto の言い逃れに対して、目の前にいるのが悪魔であることを十分承知している、と言っているのである。悪魔は聖書では何度も Beelzebub と呼ばれている。(Matth. 10, 25; 12, 24, 27; Markus 3, 22). Baal-Sebub の古形では一度 (2. Könige 1, 2). また Verderber とも呼ばれている。(2. Mose 12, 23; 2. Samuelis 24, 16; Jeremia 6, 26; 1. Korinter 10, 10). また Lügner とも呼ばれている。(Sirach 51, 7; Johannis 8, 55). これらの聖書の箇所は、16、17、18世紀には知られていたので、Fliegengott, Verderber, Lügner という呼び名の意味は明らかである。(Trunz). Alexandriner. (Arens).
- 1335f. denn — 一体。Ein Teil von — (Ich bin) ein Teil von. Kraft — kosmische Kraft. (Endres). Die — 関係代名詞。先行詞は前行の jener Kraft. 『ファウスト』全体の根本思想にふさわしい有名な自己定義。奇妙

にもここは嘘ではなくて真実である。しかもこの答はいかにも悪魔らしい。悪魔が自分のことを、「私は常に善いことをしている」と言うとき、彼自身この言葉を、自分が口にするのできるうちで、一番悪い嘘だと思っている。(Heinemann).

この行にゲーテの Mephisto 理解の鍵がある。善は悪なしにはあり得ない。光が影なしに、昼が夜なしに、向上心が迷いなしにはあり得ないと同じように。互いが相手の生みの親であると言う古い宇宙創造説は、すでに対立するものが相互に制約し合うということを知っている。しかし一方が他方を促進するということは、ここほど明白に語られているところはどこにもない。またゲーテの „Faust“ ドラマに於けるほど、首尾一貫して表現されている所はどこにもない。(Trend.).

もし悪魔が善悪の概念を持っているのなら、その概念は本質的には人間の持つ概念と完全に対立するものでなければならない。しかし悪魔はパートナーに対して、自分を理解してもらうために、人間の持つ意味でこの概念を利用している。そういうわけで Mephisto は、V. 1342—44に於て、人間が悪と呼んでいることを、悪として定義している。(Arens). この2行は Alexandriner. (Arens).

1337. 状態受動。

1338. der Geist, der — 先行詞(霊)と関係代名詞。

1339. Und das mit Recht — Und ich verneine mit Recht. alles, was — 不定関係代名詞が先行詞をとる例。3行下も同じ。

1340. Ist (es) wert, daß. daß 文の es は前行の alles。生じるものはすべて始まりがある。従って有限であるということ。(Arens).

1341. Drum — Darum. wär's — wäre es. es は daß 文を受ける。wäre, entstünde — 接続法Ⅱ。非事実。

1342. So ... denn — そういうわけで。

1343. kurz — mit einem Wort. (Heyse). 要するに。

1344. Element — Lebensluft, Wirkungsgebiet. (Fischer).

1345. ganz — als vollständig, wo kein theil fehlt, oder gegenüber den theilen, der getheilten erscheinung. (Grimm). Alexandriner. (Arens).

1346. bescheiden — gering, wenig, klein. (GWb). ささやかな(真実)。

1347f. Wenn — Während, Wenn auch. (Heffner). der Mensch, die kleine Narrenwelt — der Mensch, dieser närrische Mikrokosmos. (Petsch). sich⁴

für et. halten. 前行で Mephisto が „Bescheidne Wahrheit" と言ったのは、人間は自分を全体だと思っているのに、Mephisto は自分を部分の部分と言うからである。(Arens).

共に Makrokosmos を形成している三つの世界、即ち、Himmelwelt, Unterwelt, Erdenwelt に対抗して、この三世界の成分でできている人間は、Mikrokosmos という名前をつけられている。この Mikrokosmos を Mephisto は、„die kleine Narrenwelt" と言って嘲笑する。彼は自分自身をただ一部とだけ名乗る。それも最初はずべてであった全体の、従って混沌の一部と名乗るのである。(Endres).

1349. des Teils, der —— 先行詞と関係代名詞。次行と共に Alexandriner. (Arens).

1350. Ein Teil —— (Ich bin) ein Teil. der Finsternis, die —— 先行詞と関係代名詞。2行下までかかる。sich —— 3格。古典古代の世界創造説によれば、創造の始まりには、無秩序で光のない、根源状態の混沌が存在した。一切の始まりであり、従って神々自身の始まりでもあったこの混沌から、Finsternis と Nacht が生れた。Hesiod によれば、この二つは更に Äther と Tag を生んだ。闇が絶対的な始源であるという Mephisto の話は、ヨハネによる福音書 (1, 1-5) の光の神学を取り消すものである。(Schöne). vgl. V. 1384: „des Chaos wunderlicher Sohn", 1397: „du Sohn der Hölle", 8027: „des Chaos vielgeliebter Sohn". (Schröer).

1351. Das stolze Licht, das —— 先行詞と関係代名詞。der Mutter Nacht —— 3格。母なる夜。

1352. Den alten Rang, den Raum —— Den alten Rang und den Raum. ihr —— 前行の der Mutter Nacht. jm. et. streitig machen. 或人と或事の権利を争う。

1353f. gelingt's —— gelingt es. es は上2行の関係文の内容を受ける。ihm —— 2行上の Das stolze Licht. so viel es strebt —— sosehr das stolze Licht auch strebt. Alexandriner. (Arens). Verhaftet —— festgehaftet, eng verbunden. (Königs).

1355. strömt's —— strömt es. es は次の es と共に das stolze Licht. die Körper —— 4格。

1356. hemmt's —— hemmt es. es は das stolze Licht. 4格。auf seinem Gange —— その (光の) 進路を阻む。つまり影ができる。(Königs).

1357. hoffe — erhoffe. dauert es nicht lange = bald. es は非人称。
1358. wird's — wird es. es — das stolze Licht. 宇宙進化論はさておき、闇と光に対する Mephisto の見解は、„Beiträge zur Optik" (1791) の中でゲーテが書き記した見解と一致している。vgl. § 22、23、24. (Arens). Mephisto は光を物体の流出として、純粹に物質的に考えている。実際には電磁波である光は、光が当って反射される対象に、客觀的に左右されな
ない。人間の知覚のみが対象に左右される。(Endres).
1359. kennen — genaue Vorstellung von etwas haben. (Fischer).
1360. im Großen — on a major scale. (Heffner).
1361. es — zu vernichten. im Kleinen — on a smaller scale. (Luke).
an|fangen.
1362. viel(es) — 主語。damit — im Kleinen. 状態受動。
1363. Was — 不定関係代名詞。先行詞は次行の Das Etwas. Nichts —
Chaos. (Heffner). sich einem Dinge entgegen|stellen.
1364. Das Etwas — 肯定の力によって創造された「あるもの」、地球のこと。
(Heffner). plump — schwerfällig, unbeholfen, ungeschickt. (Fischer).
1365. = Soviel wie ich schon unternommen (habe). 今までやってみた限りでは。
1366. ihr — 2 行上の diese plumpe Welt. jm. beikommen — jdn
beeinflussen, für sich gewinnen, in seine Gewalt bekommen. (GWb). zu tun
wissen = tun können.
1367. Wellen — Überschwemmung. Schütteln — Erdbeben. 有害なことは
すべて悪魔の仕業である。(Trend.). „Prolog" で Michael が称えているよ
うに、これは Mephisto の仕業ではない。(Arens).
1368. Geruhig — völlig ruhig. ruhig の強調、19世紀まで併用された。ゲー
テの場合それほど珍しくはない。(Fischer).
1369. Zeug — thiere und menschen, gewöhnlich in stark abschätziger
bewerthung. (Grimm). Brut — stark abwertend iSv Gesindel, Gezücht.
(GWb.)
1370. Dem — 指示代名詞。前行を指す。anhaben — einem etwas anhaben
= ihm Anbruch tun. 人に損害を与える。否定文で用いられ、大抵 können
と結びつく。(Fischer). sein + zu 不定詞。
1371. Wie viele hab' ich — Wie viele (Tiere- und Menschenbrut) habe ich.

- Mephisto の悪魔の面がここに明白に出ている。(Schröer).
1372. zirkulieren = kreisen. 循環する。(Fischer). Alexandriner. (Arens).
1373. es — 非人称。fort|gehen. rasend — toll, unsinnig. (Fischer). man möchte — ich möchte. 狂いたい位いだ。
- 1374f. Der Luft, der Erden — 3 格。Erde が Sg. 2 格と 3 格に於て弱変化する例は、ゲーテには多い。vgl. V. 1899、2440、3022、3763。(Fischer).
Entwinden tausend Keime sich — Entwinden sich tausend Keime. sich einem Dinge entwinden — sich daraus befreien. (Fischer). sich loswinden. (Grimm).
1376. Im Trocknen, Feuchten, Warmen, Kalten! — In der ganzen geschaffenen Welt. Aristoteles や特に Empedokles によれば、四元素は trocken — feucht, kalt — warm という二つの主要な対立と結びつくことによって、それぞれの特殊な状態を維持していると見なされていた。(Petsch). das Trockne, Feuchte, Warme, Kalte は抽象的な乾燥、湿気、温暖、冷気の意。
1377. Hätte ich mir ... — Wenn ich mir die Flamme nicht vorbehalten hätte. 接続法 II。過去の仮定。die Flamme — 四大 (die vier Elemente) のうち火だけは何物も生み出さない。破壊するだけである。(Trend.). vorbehalten のあとにそれぞれ Komma, Doppelpunkt, Semikolon がついている版があるが、Komma が一番多い。
1378. Ich hätte ... — Hätte ich nichts Aparts für mich. apart — fr. besonder, eigenartig. ゲーテはこの語を、若い頃の手紙以来再三用いている。(Fischer). extra. (GWb). 英訳では: „If I had not kept fire for myself, / There would be nothing I could call my own." (Atkins).
- 1379—81. entgegen|setzen. der ewig regen (Gewalt). heilsam — heilbringend. (Fischer).
1382. Die — 関係代名詞。先行詞は前行の kalte Teufelsfaust. tückisch — boshaft, arglistig. (Fischer).
1383. Was anders suche zu beginnen — Suche, etwas anders zu beginnen. suche — Optative, not imperative. (Heffner).
1384. Des Chaos wunderlicher Sohn — Wunderlicher Sohn des Chaos. Chaos — Urgemisch, Urnebel, ungeordneter Urstoff der Welt. (Fischer). wunderlich — Mephisto は無駄ではあるが、神性に対して絶えず反抗するので Faust は奇妙だと言う。(Königs). ここは Faust が、悪魔の世界を全

く理解していないことを示している。(Arens).

1385. Wir wollen wirklich — Wollen wir wirklich. wollen — 接続法 I。
Wir に対する要求。Wir は V.1331 の „ihr Herrn" という Faust の呼びかけ
に応じたもの。(Arens).
1386. = (Wir wollen) die nächsten Male mehr davon (sprechen)! die nächsten
Male — 4 格。
1387. Dürfte — 接続法 II。外交的表現。Mephisto はへり下った召使の役を
演じている。(Trend.).
1388. sehe — erkenne, verstehe.
1389. 現在完了。
- 1390—92. Besuche — 命令法。nun — von jetzt an. wie du (besuchen)
magst. ist dir gewiß — steht jederzeit dir offen. (Trend.). 悪魔や魔女は
窓から飛んだり、煙突を抜けて飛んだりする。vgl. V. 2383. (Düntzer).
- 1393—95. Gesteh' — 接続法 I。ich に対する要求。just let me confess!
(Thomas). ich's — ich es. es は daß ich ... から 2 行下までを指す。こ
こは = ein kleines Hindernis, der Drudenfuß auf Euer Schwelle, verbietet
mir, daß ich hinausspaziere.

Drudenfuß — Pentagramma (griech. „pente" = fünf; „gramma" = das
Gezeichnete). 正五角形の各辺を、互いに接するまで延長してできる星形
五角形。中世やバロックの魔法使い、錬金術師、神知学者の文献に多く用
いられている。この五角形がイエスという名前の文字を表わしている場合
は、聖なる図形として悪霊を防ぐ。(Trunz).

五角形の星形の魔法のシンボル。pentagram, pentalpha. Drude はドイツ
神話では、眠っている人を苦しめる女性の incubus, 即ち、夢魔で、のち
に Hexe や Unhold と同義語になった。彼らを防ぐために魔法の pentagram
が、ベットや敷居に刻まれたり、画かれたりした。Drude は白鳥の足をし
ていたので、その足跡の類似から、pentagram が Drudenfuß と呼ばれるこ
とになった。ピタゴラス学派の pentagram は、今日でもなおアイルランド
から中国に至る、あらゆる国に見られる、悪魔のシンボルといわれている。
(Thomas). Drude — drud, drut(e), trud(e); für hexe, altes hexenartiges
weib, unhold, alp der die schlafenden drückt, mhd. trute. (Grimm).

1396. Pentagramma — Faust は Drudenfuß の代りに、学問的な Pentagramma
を使う。(Schröer). Mephisto はもちろん霊である Drude に因んで、Druden-

- fußの方を使う。(Loeper).
1397. Ei —— als Ausdruck des Aufforderns, auch zur Erregung von Aufmerksamkeit, Bereitwilligkeit. (GWb). sage —— 命令法。
1398. das —— 2行上の Pentagramma. bannen —— unwiderstehlich fesseln. (Fischer). herein|kommen.
1399. ein solcher Geist —— Mephisto. betrogen —— gefangen, in die Falle gebracht. (Schöne). betrügen —— täuschen. (Fischer). 過去の受動。
1400. Beschaut —— Ihr (Faust) に対する命令法。es —— V. 1395. 次の Es も同じ。状態受動。
- 1401f. der —— 関係代名詞。Der eine Winkelが先行詞。zu —— zu (gewandt) (ist). du —— これまでの ihr から以後 du に変る。(Arens).
1403. Das hat der Zufall gut getroffen —— 偶然がそのことにうまく当たった、そりゃ運がよかった。
1404. wärest —— 接続法Ⅱ。まさかの驚き、疑いを表わす。wärest denn du? —— wärest du denn? denn = also.
1405. von ungefähr —— durch Zufall, zufällig. von ohngefährの版もある。(Loeper). 16世紀以来古い ohngefährの代りに、ungefährが次第に取って代る。(Fischer). この詩行の意は V.1403と同じ。(Thomas). 現在完了。
1406. er —— der Pudel. hereingesprungen (ist). V. 1187でやっと自分の窮地に気付く。(Heffner). Alexandriner.
1407. aus|sehen.
1408. aus dem Haus (gehen).
1410. 's ist —— es ist = es gibt. この Gesetz については、ゲーテの創意であるという説と、Johannes Prätorius (1630-80) の著作から知ったという説がある。
1411. sie —— 前行の Teufel und Gespenster. hereingeschlüpft (sind). hinaus —— hinaus (gehen). Alexandriner. (Arens). da —— Wo を受ける。
1412. Das erste —— 部屋に入ること。uns —— 3格。frei|stehen. beim zweiten —— 出て行くときには。Alexandriner. (Arens).
1413. Rechte —— laws. 法律。(Thomas).
- 1414f. Das find' ich gut —— Das finde ich für gut. da —— dann. ließe —— 接続法Ⅱ。確認、安堵を示す。sich ein Pakt schließen lassen —— man kann einen Pakt schließen. Und sicher wohl —— Und wohl ein sicherer (Pakt).

(Trend.).

1416. man — wir. das — Was を受ける指示代名詞。sollst — kannst. rein — lauter, ganz. (Trend.). völlig. (Grimm). 英訳では: „What we promise, you will enjoy with no reservations." (MacNeice).
1417. Dir — あなたから。davon nichts — nichts von dem, was man verspricht. abzwacken — in kleinlicher Weise entziehen. (Fischer). abnehmen, abnötigen. (GWb). 少しばかり巻き上げる。
1418. das ist nicht so kurz zu fassen — that (i.e., such an inviolable agreement) is not to be dispatched so quickly. そのような神聖な契約は、そう手早く片付けることはできない。(Thomas).
1419. das — 前行の das と同じ。zunächst — nächstes Mal. (Endres). bald, demnächst. (Grimm). ここは = wir unterreden uns darüber nächstes Mal.
1420. jetzo — (mhd. jezuo, jezô). = jetzt. itzo と共に16世紀から18世紀まで用いられた。ゲーテは特に手紙で、最初の手紙から最後の手紙までよく用いた。(Fischer). hoch und höchste — nachdrücklichst, dringendst. (Endres). unterwürfige Dringlichkeitsformel. (Schöne).
1422. So — Nun, Jetzt. bleibe — 命令法。doch — 命令を強める。
1423. Mär(e) — (mhd. mære). kunde, bericht, erzählung. Luther の weihnachtslied では、天使がキリスト誕生の gute Mär を、高い空から歌って知らせる。そのあと Hainbunddichter たちによって、再び用いられるようになった。(Grimm). この場合の使い方には、ほとんど冒瀆的な関連がある。これはゲーテが意図したことである。(Arens). gute Mär zu sagen = unterholte mich erst, erzähl' mir was, bevor du gehst! (Schröer). Weimarer Ausgabe では Mär'. vgl. V. 2914.
1424. laß ... los — 命令法。los|lassen. Mephisto は3回立ち去る許可を求める。(V. 1387, 1420, -24). 次の (Studierzemmer II) 冒頭の場面で、Faust は3回 „Herein" を言わねばならない。ここに状況の逆転が反映されている。(Arens).
1425. Dann magst du ... — Then you can ask me whatever you like. (Greenberg). もともところは計画されていた Disputation の場と、恐らく関わりがあるだろう。(Schöne).
1426. jm. nachstellen. 罠にかける。現在完了。
1427. Bist du doch ... gegangen — Denn du bist ja selbst ins Garn gegangen.

ins Garn gehen. 罫にかかる。現在完了。

1428. halte — 接続法 I。wer に対する要求。ihn = den Teufel. 次行の ihn も同じ。悪魔を捕えている者は、悪魔を放すな。

1429. Er — 前行の wer.

1430f. dir's — dir es. es は次行の zu 不定詞句。bereit sein, et. zu tun. Dir zur Gesellschaft — あなたとつき合うために(ここに留まる)。

1432f. mit Bedingnis — unter der Bedingung. (Königs). jm. die Zeit vertreiben. 或人の暇をつぶす。退屈を紛らわす。この zu 不定詞句は Bedingnis の附加語。würdig — nach Gebühr, verdientermaßen. (Fischer).

1434. es — 次の das と共に、Mephisto の演じて見せる Künste. jm. freistehen.

1435. Nur daß die Kunst gefällig sei! — Nur daß mir deine Künste gefallen! (Trend.). Nur daß — Nur (eine Bedingung stelle ich), daß. sei — 接続法 I。という(条件で)。英訳では: „But let your art be a pleasing one." (MacNeice). die Kunst gefällig — Mephisto が約束しているような感覚にとってこころよい、いわゆる gefällige Kunst は、18世紀のアナクレオン派の文学の目的であり、またロココ様式の絵画、音楽、建築の目的でもある。(Gaier).

1436—44. mein Freund — Mephisto は Faust を手中に収めたので、„mein Freund" と呼びかける (V. 1402で du に変っていた)。Mephisto は今まで Faust には全く無縁の Sinnengenuß を約束する。五官のそれぞれについては: Gehör (V. 1439の „singen")、Gesicht (1440 „Bilder")、Geruch (1442)、Geschmack (1443 „Gaumen")、Gefühl (1444)。 (Arens).

1437. In dieser Stunde — この短い時間に。mehr — より多くのもの。

1438. in des Jahres Einerlei — in dem Einerlei des Jahres. Einerlei — gleichförmig, eintönig. (GWb). この2行の英訳は: „In this one hour, know greater sensuous delight / Than in a whole monotonous year!" (Luke).

1439. Was — 不定関係代名詞。die zarten Geister — V. 1259ff. と同じ霊。目に見えない霊たちの歌は、一番古い Faustbuch にもあるが、ゲーテの眼前に浮かんでいたのは、Shakespeare の „Tempest" の中の Ariel の歌だった。(Düntzer).

1440. Die schönen Bilder, die — 先行詞と関係代名詞。sie — 前行の die zarten Geister. bringen — darbieten, vorstellen. (GWb).

1441. Sind — 前2行が主語。nicht ein leeres Zauberspiel — 人を欺く手品ではなく、実際の体験ということ。(Trend.). -spiel は3行下の Gefühl と韻を踏む。
1442. Auch — この Auch によって、前の詩行が更に詳述されるのではなく、直接的な官能の作用、即ち、まどろんでいる衝動の刺激が表現されている。この眠っている衝動を、Mephisto はその Bilder によって、Faust の内に目覚めさせようとするのである。(Witkowski). ergetzen — ergötzen = erfreuen. (Fischer).
1443. Gaumen — 上顎、味覚の場所。(Fischer). letzen — erquicken, erfrischen. (Grimm).
1444. Mephisto が Faust に約束するのは、Faust が V.430f., -78f. で述べているのとは、全く別のものである。人間全体を、霊と肉を包括して、魂を広げるような体験ではない。Faust が無意識のうちに熱望していた (Mephisto は V. 304f. で指摘している) 途方もない快感を、抜け目なく媚びるように呼び覚ますことである。(Arens).
1445. Bereitung braucht es nicht voran — es bedarf keiner Vorbereitung. (Erler). es — 非人称主語。voran — (seit 17. Jhdt.) = vorher, zuror. (Fischer).
1446. fanget an! — fangt an! ihr に対する命令法。an|fangen.
- 1447—1505. 霊たちの歌っていることが、眠っている Faust の心眼の前で同時に実現される。即ち、Faust に対して天井が消えて雲になる。雲自体もまた雲散霧消する。それらは昇る太陽に席をゆずる。漂っている霊の群は、以下に於て楽しい愛を享受し、ワインを愛飲している人々と交替する。理想的な風景の中で、ぶどうからワインの川が流れて湖に注ぎ、丘からは鳥たちが、幸福な人々の明るい島へと飛んで行く。そこからまたすべてが無限の中へと流れ込む。それと同時に霊たちの歌も消える。(Reclam).
- この霊たちの歌はその官能性の点で、Wagner の „Tanhäuser" の Venusberg-Chöre を思い出させる。(Buchwald). Adonius (— v v — v) で書かれているこの59行の詩行は、V. 1451、—56、1505の3行だけ中断されている。そしてこの3行では、最後の Silbe を欠いた Katalexe (行末不完全) によって、Choriambus (— v v —) になっている。(Trend.).
1447. Schwindet — ihr に対する命令法。schwinden — abnehmend nach und nach vergehen. (Fischer). dunkeln — dunkle より多く用いられる。

1448. Wölbungen — Faust のゴシック風の研究室の円天井。(Thomas).
- 1449—51. Reizender — 円天井より「もっと魅力的な」という意味ではない。円天井は全く魅力的ではないのだから。vgl. V. 6928ff. これは最初に出現する雲に覆われた空と、der blaue Äther (青空) との比較である。(Thomas). schaue ... herein — 接続法 I。der blaue Äther に対する要求。herein|schauen — (von oben) hereinsehen. (GWb). Äther — der weite, hohe Himmel. (GWb). 英訳では: „Let the blue sky of heaven / Look down on us here, / The beautiful blue sky / With friendliest cheer!“ (Bruford).
- 1452f. Wären die dunkeln / Wolken zerronnen! — So wären denn die dunkeln Wolken zerronnen. (Königs). 接続法 II。過去。願望が早くも実現されたことに対する、安堵と確認の気持が、so denn によって表現されている。So sind denn ... (Schmidt). そうら、暗い雲も散り失せた。(高橋).
1454. Sternelein — Sternlein.
- 1455f. Mildere — 比較級。自然の太陽より穏やかな光を放つ太陽 (Pl.) で、星の光を消さない。(Thomas). darein — 中へ (光が差し込む)。(Thomas).
- 1457—69. 美しい若者たちと、そのあとに続く美しい娘たちの天空に見える姿が、漂い通りすぎて行く。その隊列には地上の愛の生活が反映されていて、桃源郷のあずまやの風景の中で、恋人たちが抱き合っている。(Trendl.).
- 1457f. Himmlischer Söhne / Geistige Schöne — Geistige Schöne himmlischer Söhne. himmlisch — am Himmel zu sehen. (GWb). geistig — unirdisch. (Fischer). Schöne — junge Himmelsgeister. (Petsch). この世のものとは思われないほど美しい若い霊たち。Himmlische Söhne を Engel とする見解もある。しかし Arens は „Prolog im Himmel“ に於て、Göttersöhne (V. 344) と呼ばれている Engel と考えるのは、ここにはそぐわないキリスト教の要素を認めることになる。従ってここは、層をなして水平に降りて漂ったり、垂直に上昇したりする層雲の形容とする。(ゲーテは子供のときから、雲を観察するのが好きだった)。
1459. Schwankende Beugung — Schöne とゆるい同格の語。(Thomas). Beugung — im Sinn eines Gaukeln, zu Charakterisierung von Geistererscheinungen. (GWb). 漂い揺れる霊の姿。
1460. Schwebet — Schwebt. vorüber|schweben.
- 1461f. Sehrende Neigung / Folg(e)t hinüber — Andere, von sehrender Neigung

- erfüllt, folgen ihnen. (Alt). hinüber|folgen. 英訳は： „Fond yearnings follow / Them on their paths.“ (Atkins).
- 1463f. der Gewänder / Flatternde Bänder — Flatternde Bänder der Gewänder. Gewänder — wohl für Wolkenbildungen. (GWb). 大地に接するように漂う雲。でなければ V. 1465は理解できない。(Arens).
- 1467—69. Wo — 関係副詞。先行詞は die Laube. sich ... geben — sich hingeben. 身も心も許し合う。(Fischer). fürs Leben — 生命を賭けて。Tief in Gedanken — 英訳では lost in illusion, drowning in thought など。Liebende — 主語。Pl.
1470. Laube bei Laube! — Laube neben Laube!
1472. Lastende — < lasten (intr.) = eine last sein, bedeutende schwere haben. (Grimm). 重みのある。
1473. Behälter — この一度だけ中性として使用。(GWb). 酒樽。in et⁴. stürzen.
1474. Drängender Kelter — Behälterの附加語。drängen — etw mit Gewalt pressen. (GWb). Kelter — Weinkelter. ブドウ搾り器。(Heyse).
- 1457f. Stürzen. — (Es) stürzen. (Schmidt). (Da) stürzen. (Petsch). Stürzen — intr. von heftigen Bewegungen. (Heyne). in Bächen — stromweise. 小川になって。(Loeper). Schäumende Weineが主語。
- 1476—83.メルヘンのように、豊かなブドウ産地の風景。(Trend.).
- 1477f. Rieseln — (Sie) rieseln. (Königs). この Sie は Schäumende Weine. 英訳は： „Hasten as brooks / Through crystalline rocks.“ (Atkins).
- 1479f. Lassen — (Sie) lassen. Sie = Schäumende Weine. hinter sich liegen lassen. どんどん前に進む。= immer weiter hinabfließen.
- 1481—83. Breiten — (Sie) breiten. Sie = Schäumende Weine. sich zu Seen breiten. 広がって湖になる。das Genügen — Befriedigung gewährende, jedem Anspruch genügende Fülle. (Fischer). metonym für üppige Fülle, Überfluß. (GWb). Grünender Hügel は Genügen の附加語。= About the delight of verdant hills = about the delightful verdant hills. 満ち足りた緑の丘陵の回りに。(Thomas).
1484. Geflügel — 鳥類の集合名詞。(Grimm).
1485. Schlürfet — Schürft. sich は 3 格。
- 1486—88. Flieget — Fliegt. 主語は das Geflügel. 次行も同じ。entgegen|flie-

- gen. der Sonne は 3 格。
- 1489f. Die —— 関係代名詞。先行詞は den hellen Inseln. gaukeln —— von allem anderen, was sich so bewegt oder zu bewegen scheint, als wäre es lebend. (Grimm). 島が波間に揺れ動いている様子。
- 1491f. Wo —— 関係副詞。先行詞は V. 1487f. の den hellen Inseln. in Chören —— chorsingend. Jauchzende —— 現在分詞の名詞的用法。2 行下の Tanzende も同じ。= Where we hear voices / Chorusing jubilantly. (Greenberg).
1493. (Wo wir) über den Auen.
1495. Die —— 関係代名詞。先行詞の Jauchzende と Tanzende が Pl. なので、次行の同格の代名詞 Alle を添えて強調した。
1500. Über die Seen —— 湖を (泳いで) 渡る。
1501. Andere schweben —— Andere schweben (in der Luft). schweben —— leicht und ohne berührung über eine fläche gleiten. (Grimm).
1502. Alle (schweben) zum Leben. zum Leben —— das ist wohl : zum Genuß des Lebens, um zu leben. (Schröer).
1503. Liebender Sterne —— 次行と共に Ferne の附加語。Sterne のあとに Komma のある版とない版があるが、ある版の方が多い。zur Ferne seliger Huld —— 至福の恩寵の彼方へ。彼らにとっては、生と愛の源泉であり、慈悲深い保護者である遥かな星を目指しているように見える。(Thomas). (Thomas と Trunz は、Sterne のあとの Komma を採用している)。この 5 行の英訳は : „Or (others) float through the air — / All seeking life's fullness, / Hoping to find / The far-distant star / Of rapture and bliss." (Atkins).
1506. So recht —— 英訳では Well done, That's fine など。luftig —— von geisterhaften wesen, die sowohl in der luft schweben, als selbst luftähnlich sind. (Grimm).
1507. ihn —— Faust. 現在完了。
1508. dafür in seiner Schuld sein (stehen). そのことで彼に恩義がある。
1509. Du —— Faust. den Teufel festzuhalten —— der Mann の附加語。
1510. Umgaukelt —— ihr に対する命令法。umgaukeln = gaukelnd umgeben. (Fischer). ihn —— Faust. 次行の ihn も同じ。
1511. Versenkt —— iht に対する命令法。Wahn —— leere, fälschlich für Wirklichkeit gehaltene Vorstellungen. (Fischer).

1512. Doch dieser Schwelle Zauber... — Doch (um) den Zauber dieser Schwelle zu zerspalten. Mephisto が出て行くには、Pentagramm の内側に向いた角を開かせねばならない。(Witkowski).
1513. eines Dinges bedürfen.
1514. Nicht lange brauch' ich ... — Ich brauche nicht, lange zu beschwören.
1515. eine — eine Ratte.
- 1516f. あらゆる神話の中で、ある種の動物は神々に捧げられ、それによって崇められるように、悪魔も当然動物の世界に関わりを持っている。猫、まむし、猿、カラス、大雷鳥などの特定の動物意外に、一般にすべての害虫、従って蛇、鼠、ひき蛙、さそり、毛虫、蚊などは、悪魔の道具である。ハエに因んで悪魔は自分を Belzebub と名乗る。鼠は全く別で、幽霊のような性質を持っている。そのために鼠は Walpurgisnacht に於て、„tausendfärbig, schaarenweise" で出現する。(Loeper). vgl. V. 1334, 6592ff.
1518. dir — 3行上の eine (Ratte). sich hervor|wagen. 敢て出現する。dich hervor zu wagen の版もある。次行の zu 不定詞句と共に Befiehlt の補足語。
1520. Sowie — Sobald. So wie とする版の方が多い。er — V. 1516 の Der Herr. sie — die Schwelle. betupfen — tupfend berühren, leicht bestreichen. (Fischer). 油の匂いで鼠はかじる所を知る。(Trend.). Mephisto は Faust のランプの、蓋のない油入れの中に指を浸す。(Witkowski).
1521. kommst ... hervorgehupft — 飛び跳ねて出てくる。
1522. Nur frisch ans Werk! — さあ元気よく仕事にかかれ。sich ans Werk machen. Die Spitze, die — 先行詞と関係代名詞。bannte — vgl. V. 1393, 1404. (Thomas).
1523. Sie — Die Spitze. vornen — vorn. (Fischer). 部屋の内側に向かって閉じている Pentagramm の先端は、敷居のへりの一番前にある。(Schröer).
1524. Noch einen Biß — (Nur) noch einen Biß. so ist's geschehen — それですんだ。現在完了。
1525. Fauste — 中世やその後に於て、ふつう行われていた学者の名前のラテン語化に応じて、Faust は最も古い Faustbuch でも、„Doktor Faustus" と書かれていた。呼びかける場合は、„mein Herr Fauste" であった。(Loeper). vgl. V. 6560, 10239, 11498. träume fort — Faust に対する命令法。fort|träumen. sich wiedersehen. 再会する。
1526. denn abermals — 又しても。denn は強める副詞。最初は地霊を引き

留めることができると思っていたとき。(Düntzer). 状態受動。

1527—29. der geistreiche Drang — das Gedränge zahlreicher Geister. (Petsch).
Drang — An- od Zudrang einer Menge, Gedränge. (GWb). 行末に hat
を補う。jm. et. vor|lügen. 嘘の話を話して聞かせる。この3行は =
Verschwindet der geisterreiche Drang, so daß nichts übrig bleibt, als die
Überzeugung, daß mir ein Traum den Teufel vorgelogen, und daß ein Pudel
mir entsprang? (Witkowski). 英訳は: „Does the throng of spirits vanish
away like fog / To prove that the devil appeared to me in a dream / But
what escaped was only a dog?“ (MacNeice).

悪魔も夢の幻影にすぎなかった。そしてもう見えないので、逃げたはず
のむく犬だけが現実だったのだ、と目覚めた Faust に思い込ませるやり方
で、大勢のひしめき合う霊たちが消え去る。(Reclam).

最後の2行からゲーテは、この場全体を、もともと Faust の内的経験と
して意図している、ということが明らかになる。(Schöne). この場の初ま
りと成り行きに比べて、完全に変わった Faust の内的状態が (最初は
Mephisto を見下していた)、次の場の冒頭で明らかになる。それと共に、
Mephisto と契約する Faust の覚悟も明らかになる。(Arens).

STUDIERZIMMER (2)

書斎 (2) (Vers 1530—2072)

Faust. Mephistopheles. 前の場で Studierzimmer にいるので、このト書は V.
1529 のあとで幕が下り、我々がここで第三幕の前にいる場合にのみ正当化さ
れよう。(Schröer). この場は異なる時期に書かれた部分から成り立っている。
そしてこうした形で、1808年の出版で初めて読むことができた。V. 1530—176
9は、„Fragment" に相変わらず存在していた間隙を埋めるために、恐らく1800
年頃にはもう書かれていたと思われる。„Fragment" の詩行は、Faust の話の最
中にある V. 1770 (Faust I) で始まって、最後の V. 2072まで続いていた。そ
の際1773年以来すでに書かれていた、Mephisto—Student の場が用いられたが、
かなり変更された。„Urfaust" では、Mephisto—Student の場は 196 詩行あり、
„Fragment" はそれを保持した。„Faust I" はこの Student の場の14詩行は保持
したが、続く中間の70詩行を省略した。従って „Urfaust" の196詩行のうち、

保持されたのは126詩行である。(Arens).

この場は以下のような部分に分けられる。(1) 死に憧れる Faust のメランコリー (V. 1578まで)。(2) 価値と道徳に対する条件付きの呪い。Geisterchor による解釈がつく (V. 1627まで)。(3) 条件付きの奉仕の申し出 (V. 1671まで)。(4) 賭と契約 (V. 1740まで)。(5) Faust の説明と目的 (V. 1867まで)。(6) Faust になりすます Mephisto. Schülerszene (V. 2050まで)。(7) 旅行の計画と移動の手段 (V. 2072まで)。(Gaier).

この場の詩行は、たいていドラマ全体に特有の Faustvers, 即ち、自由に取り扱われている Madrigalvers であり、たいていは vierhebig (四揚格)で、fünfhebig はかなり稀であり、Mephisto によって Sechsheber (Alexandrin) にまで広げられている。この Madrigalvers は Faust に於ては、威勢のよい言葉で、完全に彼の心を満たしている絶望を表現する。それから Faust が、眼前にちらつく官能的な新しい生活を考えると (V. 1750-59)、リズムが不安定になる。Mephisto はこの同じ Versart を、自分の、より簡潔で合理的且つ辛辣な詩節のために利用する。Geisterchor が叙情的な要素を持ち込むのは、味気ない言葉を語る、この冷淡なパートナーだけが、Faust の面前にいないようにするためである。(Trunz).

1530. Es klopft? —— 人称動詞の非人称的用法。戸を叩く音かな。

1531. Ich bin's —— Ich bin es. 私ですよ。Ich bin es, (der kommt). es dreimal sagen —— この es は = Herein. dreimal —— vgl. V. 1319. (GWb). 3回の „Herein" は、ゲーテが地獄を拘束するものとして発明した、一連の掟の条項に含まれる。Faust が直ちに従順に、支持者であることを証明してくれるなら、それは契約の円滑な成立を約束する。従って Mephisto は、V. 1532で満足を示す。(Trend.).

ここは前の場で Mephisto が 3回 (V. 1387, 1421, -24), Fortgehen を Faust に頼んだ仕返しであり、決定的な Mephisto の接近に対する、Faust の明白な同意を聞くためでもある。(Arens).

1532. denn —— nun denn. それでは。So gefällst du mir —— So erfreust du mich. So bist du mir erwünscht.

1533. Wir werden, hoff ich, uns vertragen —— Ich hoffe, daß wir uns vertragen werden. sich vertragen. 仲よくやっけて行く。

1534. Denn dir ... —— Denn (um) dir die Grillen zu verjagen. dir —— 追い

- 出すという意味の *verjagen, vertreiben, austreiben* などは、再帰的 3 格と共に用いられる。(Fischer). *die Grillen* — *seltsame, wunderliche einfälle. trübselige, sorghafte gedanken. fast nur im plural.* (Grimm). *Grübeleij, Angst, Sorge.* (GWb).
1535. *Bin ich als edler Junker hier* — *Komme ich als edler Junker hierher. edler Junker* — *adliger Jungherr, Kavalier. Wams, Mantel, Hut mit Feder* (V. 2485f.), *langer, spitzer Degen* (Valentinszene) といった古いドイツの服装をしている。(Trend.). 剣を帯びるのは、市民には許されていなかった。(Trunz).
1536. *Kleide* — 上着。(Thomas).
1537. *starr* — *steif, straff.* (Fischer). あとに *tragend* を補う。次行も同じ。
1538. *Hahnenfeder* — *Schwungfeder eines Hahnes.* (Fischer).
1540. *Und rate* — *Und (ich) rate.* 次行が補足語。*nun* — *jetzt. kurz und gut* — *ohne Umschweife, bündig.* (Schröer). 単刀直入に、手短かに (勧める)。 *ohne alles weitere.* (Grimm).
1541. *Dergleichen* — そのような身なりを。
- 1542f. *Damit* — 目的を表わす副文章を導くので、定動詞 *Erfahrest* は接続法 I。 *losgebunden* — *los|binden = befreien.* (Fischer). *was das Leben sei* — 即ち、享樂の生活。(Endres). *sei* — 接続法 I。間接引用文。
- 1535-43. *Mephisto* は宮廷貴族風の紳士の服装をしている。しかし赤い上着に帽子の雄鶏の羽は、同時にサタンの伝統的な標識である (V. 2485f.). *Mephisto* によって計画されていた „*die kleine, dann die große Welt*” (V. 2052) への „*Kavalierstour*” のために、同じ身なりをするのは、*Faust* にとっては服装の規則によって標示された、身分の境界から解放され、自由になるだけではない。同時に *Faust* が悪魔化する (V. 3371) ことを示唆している。(Schöne).
1544. *In jedem Kleide* — 服装はゲーテにとっては、表面的なもの、どうでもよいものでは全然なくて、性格描写に役立つものである。(Trend.). *Faust* が自分に全く無縁の服装をすれば — 差し切り変装すれば、今までの生活から別離することになる。(Arens).
1545. *Erdelebens* — *Erdenlebens.*
1547. *Zu jung, um ...* — *(Ich bin) zu jung, um auf Erdenglück zu verzichten.* (Schröer).

- 1546—71. この発言の中で Faust は、紛れもなくゲーテ自身の考えを語っているので、我々は Faust をゲーテの年齢で、従って50代の始めと考えるだろう。vgl. V. 2342: „Wohl dreißig Jahre mir vom Leibe.“ (Trendl.).
1549. (Du) sollst entbehren! 不自由を忍べ、我慢せよ。entbehren — auf Erwünschtes, Notwendiges, Gewohntes verzichten. (GWb). Mephisto の losgebunden, frei (V. 1542) という言葉は、Faust にとってそのようなものはないし、また決してあり得ない、ということを行うためのきっかけの台詞になっている。Entbehren は das nicht-frei-Sein を意味する。以下に続く不満は、すでに今までの多くの箇所と同様に、自我の限界 (第2部の結末の場でようやく解決を見るライトモチーフ) について語っている。その結果そこから死への憧れが生じる。… 包括的な人間像を見出すこと、Entbehren をある程度必要なこととして理解すること、これらは人間の課題である。そこから人間は諦念に到達する。Faust の Entbehren についての言葉は、彼の一面性と一時的な気分を、そうしたアンバランスな人間像によって示している。第二部に於て Faust は、Helena の夫として全く別の特徴を示す。(Trunz).
1550. der ewige Gesang — bildlich, von der rede, die stets wiederholt wird, wie das alte lied. (Grimm).
1551. Der — 関係代名詞。先行詞は der ewige Gesang. 次行の Den も同じ。jedem — die Ohren の所有者。
1553. Uns — 3格。heiser — wie ein Unglücksrabe. 不吉な鳥のように。(Petsch). jede Stunde — 主語。
1554. auf |wachen.
- 1554—65. この Faust の生の苦しみは、V. 401—13, 634—51, 1210—14に続くもの。たとえ „nur mit Entsetzen“, „bittere Tränen“ を、力を込めた誇張と見ても (特に Faust は泣きも笑いもしない)、生に対する彼の苦い思いは明らかである。(Arens).
1556. Den Tag zu sehen — Wenn ich den Tag sehe. 前行にかかる。den Tag — jeden Tag. (Loeper). den Alltag, also sein Leben. 日々の生活。(Arens). der — 関係代名詞。先行詞は Den Tag. in seinem Lauf — seinem は Den Tag の所有代名詞。
1557. Einen Wunsch — E の大文字は強調のため。= keinen einzigen. nicht Einen — nicht Einen (Wunsch). Einen は Zahlwort, stets betont. (Fischer).

1558. Der — 関係代名詞。V. 1561までかかる。先行詞は2行上の Den Tag.
1559. eigensinnig — ここでは文字通りの意。= seinen eigenen Sinn habend.
手前勝手な。(Arens). Kritteln — kritteln に由来。= Tadelsucht. (Fischer).
grilliges, kleinliches mäkeln. この語はこの箇所によって初めて文章語に導
入された。(Grimm). これは „Kritteln" を澆刺とした生活の主要な敵と見
なす、最もゲーテ特有の信念である。(Heinemann).
- 1560f. ここはゲーテが自分のことを語っている所である。「空想が損なわれな
いように、むりやり毎日の „Fratzen" を遠ざけねばならない」とゲーテ
はしばしば告白した。(Heinemann). しかしゲーテはこうも言っている：
„Nichts ist höher zu schätzen als der Wert des Tages." (M. u. R. 789).
(Arens). Lebensfratzen — Widerwärtigkeiten des alltäglichen Lebens.
(Fischer). Fratze の別の意味による使用は、V. 1739, 4241. (Witkowski).
- 1562—71. Auch muß ich ... das Leben mir verhaßt — Faust の絶望の詩行か
らは、Hiob の嘆きが聞えてくる („Prolog im Himmel" は、Faust に Hiob
の役割を委ねている)：„Wenn ich gedachte, mein Bette soll mich trösten,
mein Lager soll mir erleichtern ... so erschreckest du mich mit Träumen, und
machst mir Grauen, Daß meine Seele wünschet erhangen zu seyn, und meine
Gebeine den Tod. Ich begehre nicht mehr zu leben." (Hiob 7, 13—16).
(Schöne).
1564. da — auf dem Lager.
1566. Der Gott, der — 先行詞と関係代名詞。2行下の Der も同じ。mir im
Busen — in meinem Busen.
1568. Der — (Der Gott,) der. thronen — herrschen. (Grimm).
1569. Er — Der Gott.
- 1566—69. Faust の胸に宿る神とは、要するに、自分は神の似姿であるという
彼の感情なのである。この感情が自然である神から期待できないものを、
彼自身から彼に期待させるのである。こうして神に満たされた Faust は、
神に背いて悪魔に向かうことになる。(Arens).
1570. so — in dieser Weise.
1571. Der Tod (ist) erwünscht. das Leben (ist) mir verhaßt.
1572. Und doch — And yet. それにも拘らず。(Luke). Mephisto は意地悪
く V. 1579f. でも繰り返す。(Trend.). Alexandriner. (Arens).
1573. O selig der, dem — O (wie) selig (ist) der, dem. dem は指示代名詞

- der を先行詞とする関係代名詞で、次行の die Schläfe の所有者。er —— 前行の der Tod. 2行下の er も同じ。
1575. Den —— 2行上の dem と同じ関係代名詞。durchrastem —— < durchrasen. 英訳では after the mad dance など。
1576. In eines Mädchens Armen —— In den Armen eines Mädchens.
- 1577f. O wär' ich ... dahingesunken! —— 接続法Ⅱ。過去の非事実。死んでいたらよかったのだが。dahin|sinken —— (kraftlos, leblos) zu Boden sinken. (GWb). vor des hohen Geistes Kraft —— vor der Kraft des hohen Geistes. des hohen Geistes = des Erdgeistes. (Trunz). entseelt —— tot, von der Seele verlassen, mehrf „entseelt (dahin)sinken, fallen, liegen“. (GWb).
- 1573-78. ここで称えられているのは、突然の死とその死にかたであり、行為や享樂自体ではない。(Witkowski). vgl. V. 198-205. ここは V. 1678-87, 1750-75 の前奏曲をなす。(Arens).
- 1579f. jemand —— Faust. einen braunen Saft —— vgl. V. 733. In jener Nacht —— vgl. nach V. 736. (Arens). 現在完了。
1581. Das Spionieren, scheint's, ist ... —— Das Spionieren ist scheint's deine Lust. scheint's —— らしい。es は非人称。
1582. viel —— viel(es).
1583. Wenn —— Wenn auch, Obgleich. (Witkowski, Trunz). しかし Arens と Schöne は、Da, Weil とする。即ち、このような事が私の身の上で起ったので、私はそこから次のような結論 (V. 1587ff.) を引き出す、ということ。しかしこの „Wenn ..., So“ は、二通りに解釈できるように書かれていると Gaier は言う。即ち、„Da ja ... betrog, so fluch' ich.“ と、„Wenn ... betrog, dann fluch' ich.“ betrog のあとには版によって Komma, Semikolon, Doppelpunkt がついている。Gaier は betrog のあとの Semikolon は、Doppelpunkt また Gedankenstrich の価値を持つと言う。Gaier は Semikolon を、Schöne は Doppelpunkt を用いている。Gewühle —— dunkle, widersprüche Empfindungen, Gefühlswirrwarr. (GWb).
- 1583-1606. この呪いは、現実も仮象も、事実も観念論の産物も、要するに生の全体を包括する。(Heinemann).
1584. Ein süß bekannter Ton —— Faust の自殺を妨げた Glocken und Chorgesang の思い出。V. 737-807. (Endres). süß —— 形容詞 süßer と解しても、bekannter を規定する副詞と解してもよい。ゲーテは und によっ

て結ばれた形容詞のうち、最初の格語尾をよく省略している。vgl. V. 235, —38, —79. (Heffner).

1586. Mit Anklang — durch das Anklingen ; durch die Erinnerungen an (frohe Zeit). (Reclam). betrog の主語は Ein süß bekannter Ton. 教会との訣別に際し Faust には、自らの信仰の最後の名残りとして、幼年時代の幸福な日々の思い出が残っていた。この思い出も今や彼には欺瞞と思われるのである。なぜならこの思い出は、実現されない希望によって、人生に対して詐欺を働いたからである。(Trend.).

1587f. So fluch' ich allem — So fluche ich jetzt allem. (Schröer). jm. fluchen. allem, was — 不定関係代名詞が先行詞を取る例。3行下の bannt!までかかる。die Seele — 4格。Lock- und Gaukelwerk — Hendiadys (二詞一意)。例：death and honor = honorable death. 従ってここは = lockendes Gaukelwerk. 2行下も同じ：Blend- und Schmeichelkräften = blendenden Schmeichelkräften. (Heffner). umspannen — etwas od. einen spannend umgeben, umschlingen, umfassen. ある物の回りを緊張して取り囲む。(Heyse).

Mephisto が提供できるものは、金銭、官能的享樂、それに恐らく高い名譽に満ちた地位である (am Kaiserhof). Faust はこの方向では何一つ期待せず、これらのものの価値を信ぜず、これらのものを受け取るつもりもないので、愛、希望、信仰、忍耐などに対して、ここで呪いの言葉を吐くのである。この呪いは「死が望ましく、生はいとわしい」といま言ったばかりの、生に絶望した者の感覚からすると、全く首尾一貫したものである。この呪いのモチーフは、V. 11409で再び現われる。そしてこの詩行は、V. 1591ff.の解釈に役立つ。(Trunz).

第二部の第4、5幕は、まさしくここで呪われている事柄を、無条件の努力の対象にしているように思われる。(Gaier). 伝説では Faust は、悪魔と結託する前提として、教会の信仰を絶たねばならない。この外面的なモチーフをゲーテは、人間の生を生きる価値あるものにするすべてに対する、衝撃的な呪いへと深めている。(Trend.).

1589f. sie — die Seele. 4格。diese Trauerhöhle — 人間の肉体のこと。Erde を Jammertal と表現するのと同じ。(Endres). vgl. V. 11626f. : den düstern Ort, Des schlechten Leichnams ekles Haus. (Schmidt.). bannen — unwiderstehlich fesseln. (Fischer).

1591f. Verflucht voraus — Verflucht (sei) voraus. V. 1593, —95, —97も同

- じ。(Heffner). voraus — vor allem, vor andern. (Grimm). die hohe Meinung — Vertrauen des Geistes auf seine Kraft. (Trend.). 精神が自らの力を信じること、それが悪の第一の原因と Faust には思われるのである。(Heffner). Womit — 関係代名詞と前置詞の融合形。= mit der. der は die hohe Meinung. umfassen — (untrb.) = umgeben. (Grimm). allseitig einschließen. ぐるりと取り巻く、取り囲む。(Heyne).
- 1593f. das Blenden der Erscheinung — die Schönheit der Welt, die uns über ihren Wert täuscht. (Alt). 自然界のすべてのものは、感覚のまやかしにすぎない。そのほか farbiger Abglanz (V. 4727) とか、Gleichnis (V. 12105) とか呼ばれているものに対する、ペシミスティッシュな表現でもある。Anaphora (首句反復) の呪い。(Schmidt). Die — 関係代名詞。先行詞は Erscheinung.
- 1595f. heucheln — etw heucheln, selten jdm etw heucheln : (jdm) etw vortäuschen, vorgaukeln. 人をだまして信じこませる。(GWb). was — 不定関係代名詞。2行下の was も同じ。Träume — halb unbewußte, noch ungeklärte Gedanken. (Fischer). 夜に寝て見る夢ではない。Des Ruhms, der Namensdauer Trug — Der Trug des Ruhms und der Namensdauer. これが was uns ... heuchelt の内容。この2行の意は = Verderblich ist das verführerische Träumen von der Verewigung des Namens im Ruhm. (Arens). 英訳: „Cursed be the lying dreams of glory, / The illusion that our name survives!“ (MacNeis).
1597. uns — 3格。
1598. Pflug — 農民の主要な道具として、最も主要な生活手段、商売、職業という、そしてそれらによって獲得された生計という、一般的な意味を持つことになった。vgl. der pflug kann ernähren, erhält die welt, was der pflug gewinnt. (Grimm). 英訳では plow, husbandry, fields など。
1599. sei — 接続法 I。Mammon に対する要求。Mammon — reichthum, geld und gut. 新約聖書に何度も出てくるこのバビロニア語は、富の擬人化を表わしているので、Luther も翻訳しなかった。Luther 以来ドイツ語に取り入れられたこの語の、多かれ少なかれ、明白に現れる悪い副次的な意味は、今日まで残っている。またしばしば人間的な意味を持つこともある。Matth. 6, 24 : „jr könnt nicht gott dienen und dem mannon.“ Luc. 16, 9 : „machtet euch freunde mit dem ungerechten mammon.“ (Grimm).

1600. Er — Mammon. 次行の er も同じ。regen — rege machen (= anregen), in Bewegung setzen. (Fischer). anspornen. (Grimm).
1601. Ergetzen — vergnügen. (Grimm). zu müßigem Ergetzen — to provide us idle pleasure. (Atkins).
1602. Polster — cervical (枕), pulvinar (座蒲団、蒲団). (Grimm). 英訳では divan, cushion など。zurechtelegt — zurechte legt の版の方が多い。zurechte — < zu Rechte. etwas zurecht legen = etw in die gehörige Lage od. Verfassung bringen. (Heyse). Polster を我々に好都合な状態に置く、当てがってくれる。
1603. sei — Fluch に対する要求。... に呪いあれ。2 行下の sei も同じ。Balsamsaft — vom Wein, beispielhaft als Vermittler der Vorstellung einer „schönen Welt.“ (GWb). Balsam — Heilmittel. (Fischer).
1604. Fluch — あとに sei を補う。jener — lat. の ille (周知の) の意。= that well known. (Thomas). Liebeshuld — Liebe Gottes, Gnade. (Lange). しかし Liebesgenuß (Trend.), Liebesakt selbst (Endres) とする見解もある。前行の „Balsamsaft der Traum“ によって、Faust は宗教的領域に言及しているのかも知れない。この „jener höchsten Liebeshuld“ によって Faust は、再びあの復活祭の夜の出来事を指摘しているが、„Liebe Gottes“ の意味である。vgl. V. 1185. Faust はその人生の終りに、この呪いの爆発を思い出すことだろう。V. 11409. (Schöne).
- 1604ff. vgl. 1. Cor. 13, 13 : „Nun aber bleibt Glaube, Hoffnung, Liebe, diese drey ; aber die Liebe ist die größte unter ihnen.“ (Reclam). Fluch (sei) dem Glauben!
1606. Und Fluch (sei). 何よりも Faust は、今まで一度もしたことのない忍耐を呪う。なぜなら忍耐は、進むべき所でとどまり、払いのけるべき所で、我慢することを可能にするからである。キリスト教徒の信仰と希望は、この現世の意味と実現を、来世に投影する。現世を耐えさせるのが忍耐なのである。(Arens). ゲーテの倫理に於ては、諦念と並んで忍耐が、最高の位置を占めている。vgl. an Charlotte von Stein 4. 12. 1777. (Buchwald).
- 1603—06. Faust の有名なこの世界呪詛の終りの所で、ゲーテは特殊な韻律を用いている。即ち、V. 1603—05 は Spondeus で始まるが、最後の V. 1606 は、諦めて普通の Madrigalvers に戻っている。(Ciupke).
- Fluch sei dem Balsamsaft der Trauben!

Fluch jener höchsten Liebeshuld!
Fluch sei der Hoffnung! Fluch dem Glauben,
Und Fluch vor allen der Geduld!

1607. Geisterchor — この Geisterchor については、さまざまな見解がある。böse Geister の歌、gute Geister の Warnung, doppeldeutig, 二つの魂の一種の自己対話、激しい呪詛のあとの自己憐憫の感情の客観化、ゲーテ自身の言葉、その他。ここでは H. Arens の見解を記すことにする。

Geisterchor を聞くのは 3 度目である。それがいつも同じ霊たちであるかどうかは、重要ではない。何れにせよこの霊たちは、Mephisto に仕えるものである。従って Mephisto の意を体して行動する。ここで Geisterchor は通常の人生の諸価値を、すべて Faust が呪うことによって、Mephisto との提携と、契約の締結を、全くあり得ないものにしてしまったその瞬間に、彼らの主人を助けるためにやってくる。従って彼らは Faust の気分を変えるために、即ち、もちろん Mephisto のそばで、「美しい世界」を体験してもらうために、Faust を手に入れようと行動を起こすのである。Mephisto はこの意味で、自ら彼らの歌を解釈する (V. 1627—34)。

霊たちは極端に Faust をおだてることによって、即ち、彼の自意識 (Halbgott, Mächtiger der Erdensöhne) を、現実そのものと思うように、そして彼の呪いを、実際の破壊と思うように詐称することによって、目的を達する。オペラのコーラスのような „Weh! Weh!“ によって、破壊の霊の下僕たちは、Halbgott Faust が „mit mächtiger Faust“ で、„die schöne Welt“ を打ち砕いたので、彼らはその破片を „ins Nichts“ の中へ運ぶほかなすべがない、と言って悲しむ。このように彼らは „die verlorne Schöne“ を嘆かざるを得ない。これは Faust の呪いが、客観的な世界には全く触れていない、という事実を考えれば、気づかないのは自意識に固まったうぬぼれ屋だけ、というほどの嘲笑である。(Arens)。

1607. Weh! — 間投詞。= O Weh! Ach Weh!

1608. Du — Faust. sie — 次行の Die schöne Welt.

1611. Sie — Die schöne Welt. sie も同じ。

1612. Halbgott — Faust. Erdgeist が Faust に皮肉をこめて Übermensch と呼びかけたように (V. 490)、霊たちは Faust に Halbgott と呼びかける。(Arens). sie — die schöne Welt.

1613f. hinüber|tragen. die Trümmern — Trümmer は元来 Trumm (n.) の Pl. で

あるが、この古い Sg. が忘れられたあとで、die Trümmer が Klopstock によって作られ、詩人たちに用いられた。その後またこの Pl. に die Trümmern が取り入れられた。(H. Paul).

1615f. klagen — 主語は 2 行上の Wir. über et.⁴ klagen. die verlorne Schöne — die verlorene Schönheit. vgl. V. 345. (Heffner). V. 1609 の Die schöne Welt のこと。

1617f. Mächtiger — Faust. Mächtiger der Erdensöhne という表現にも、嘲笑が隠されている。vgl. V. 3266 : du, armer Erdensohn. V. 609 : Dem ärmlichsten (= Wagner) von allen Erdensöhnen. V. 617 : abgestreift den Erdensohn. 例外は V. 9611 の der Erdensohn Antäus. (Arens).

1619. Prächtiger — 副詞の比較級。(Schröer). しかし Mächtiger と同じ形容詞の名詞的用法とも解され得る。

1620. Baue ... wieder — 接続法 I。Mächtiger に対する要求。wieder|bauen. sie — V. 1616 の die verlorne Schöne. 次行の sie も同じ。

1621. baue ... auf — 前行の Baue ... wieder と同じ。auf|bauen. In deinem Busen — vgl. V. 491 : Wo ist die Brust, die eine Welt in sich erschuf? もはや曇りなき心で、Mephisto に導かれて新しい生涯を始めるように、という全く真剣な警告である。(Arens).

1623. Beginne — 接続法 I。Mächtiger に対する要求。

1625f. Und — そしたら。neue Lieder — 霊たちの歌う祝賀の歌。(Thomas). Tönen — 接続法 I。= mögen tönen. (Trend.). = werden tönen. (Endres). darauf — auf neuen Lebenslauf.

1607—26. Faust による世界破壊を嘆く Geisterchor は、詩行の内容に応じて、自由韻律詩に終わる韻律で語っている。即ち、自由なヘービング数とゼンクング数 (1—4 hebig)、部分的には無韻の詩行 (V. 1607f., —10, —14)、そのほかは自由なリズムに特有の Enjambement¹ (V. 1613—20) と同様に、自由な Reimstellung である。(Ciupke). ¹Enjambement : アンジャンブマン。行末と文末とか一致せず、詩行が次行にまたがったものをいう。(山口)。

1627. die Kleinen — 形容詞の名詞的用法。Pl.

1628. Von den Meinen — Von den Meinigen. 私の部下、家来、家族の。

1629. Höre — Faust に対する命令法。Lust und Tat — Faust の将来を要約する言葉。(Endres).

1630. Altklug — 年寄のように賢明な。(Grimm). 18世紀には erfarenklug

- もまだよく用いられていた。(GWb). sie — 主語。3行上の die Kleinen. 4行下の sie も同じ。(dir) zu Lust und Taten raten. jm. zu et. raten.
1631. In die Welt weit — In die weite Welt.
1633. Wo — 関係副詞。先行詞は Einsamkeit. Säfte — 血液。= natürliche Flüssigkeit in Tier- und Pflanzenkörpern. vgl. V. 1740 : Blut ist ein ganz besonderer Saft. (Fischer).
- 1627—34. ヘーブング数とゼンクング数は自由で、対韻である。従って韻を踏んだ自由詩行とすることができる。(Ciupke).
1635. Hör auf — Faust に対する命令法。auf|hören. 続く zu 不定詞句が目的語。ein Geier am Leben frißt のような Gram の比喩は、Prometheus の肝臓を食いつくす Adler を思わせる。(Arens). mit et. spielen. 或物をもて遊ぶ。Gram — gern mit anspielung darauf, dasz der gram als ein schleichender, zehrender zustand das leben kürzt und die lebenskraft schwächt. (Grimm).
1636. Der — 関係代名詞。先行詞は Gram. dir am Leben — an deinem Leben.
1637. Die schlechteste Gesellschaft — Auch (od. Selbst) die schlechteste Gesellschaft. schlecht — nach ältere Bed. = einfach, gering, schlicht. (Fischer). schlicht, normal. (Schöne).
1638. Daß du ein Mensch mit Menschen bist — Daß du ein Mensch unter dem Volk bist. vgl. V. 940. (Trend.). Faust の度外れの人生苦は、仲間、即ち、Mitmenschlichkeit の欠乏によるので、この Mephisto の判断は正しい。(Arens).
1639. so — こういう風に。ist's — ist es. es は次行の zu 不定詞句。
1640. Pack — gemeines Volk, Gesindel. (Fischer).
- 1640—48. Freie Verse, gereimt. (Ciupke).
1641. keiner von den Großen — kein Großer. Satan とか Lucifer ではない。(Arens).
- 1642f. Doch willst du ... nehmen — Doch wenn du ... nehmen willst. mit mir vereint — mit mir zusammen. Schritte durchs Leben nehmen — durchs Leben schreiten.
1644. sich bequemen = sich entschließen. (Fischer). 次行の Dein zu sein が補足語。
1645. Dein zu sein — Mephisto が Faust のものになるということ。auf der

- Stelle = sofort.
1646. Geselle — gefährte, genosse, kamerad. (Grimm). vgl. V. 342, 1241, — 98. (Arens).
1647. mach' ich dir's recht — wenn ich es dir recht mache. es jm. recht machen. 人を満足させる。es — 意味のない4格の es. machen が他動詞なので必要。Probezeit を申し出ているように見える。(Arens).
1648. Diener, Knecht — Geselle より低い地位。もしかしたら Mephisto は、完全に卑下した態度を示して、誘っているだけなのかも知れない。(Arens).
1649. was — welche Pflicht. ここは = was du dafür verlangst? (Schröer).
1650. Frist — Zeit. それはまだ先のことだ。伝説では24年後。(Arens).
1652. um gottes willen — umsonst, gratis, in der hoffnung auf göttlichen lohn. (Grimm). この慣用句はもちろん Teufel — Gott の機知に富んだ対照の為に用いられている。(Witkowski).
1653. Was — 不定関係代名詞。
1654. Sprich ... aus — 命令法。aus|sprechen.
- 1656—59. Mephisto は期限や特別な禁止には触れずに、伝承通りの債務履行の契約を提案する。(Volksbuch では、全キリスト教徒の敵になること。キリスト教を捨てること。回心しないこと。Puppenspiel と Christlich Meinender に於ては、更にこの世に於ける Mephisto の無条件の奉仕と、その後の(永遠の) Faust の無条件の奉仕だけが問題になっている。(Arens).
1656. hier — in dieser Welt, auf der Erde. sich zu et. verbinden (= verpflichten). ある事に対して義務を負う。Mephisto は hier, drüben を用いて、Erde, Hölle, Diesseits, Jenseits を慎重に避けている。(Arens).
1657. Auf deinen Wink — (Ich will) auf deinen Wink. あなたの合図によって。ruh(e)n.
1658. drüben — im Jenseits, im Totenreich, auch subst. (GWb). sich wieder|finden. 再会する。
1659. sollst du — この sollst の英訳は : will, shall, must, you are to do など。
1660. mich wenig kümmern — mich nicht angehen. 私には何の関わりもない。es kümmert mich = es geht mich an. (Heyse). ゲーテは死後も個人的には生き続けると確信しているけれども、あの世がこの世の生活に影響

を与えるのを許さない。このことを Faust は高齡になってもう一度、明白に表明している。vgl. V. 11442ff. (Trendl.).

1661. Schlägst du ... zu Trümmern — Wenn du ... zu Trümmern schlägst. erst — zuerst, vor allem.

1662. Die andre — Die andere (Welt). mag — 認容。生ずるがよい。4 行下の mag も同じ。ここは = So mag die andere danach entstehen.

1663. quillen — V. 1211の注参照。

1664. schein(e)t — 本来は自動詞。meinen Leiden — 本来は中性。

1665. Kann ich mich ... scheiden — Wenn ich mich ... scheiden kann. erst — zuerst, vor allem. ihnen — Freuden と Leiden. von ihnen scheiden は死を意味するが、自発的な死ではない。(Arens).

1666. Dann mag, was will und kann, geschehen — Dann mag geschehen, was will und kann. mag と kann のあとに、Komma のついた版とない版がある。was — 不定関係代名詞。英訳では: „Then let whatever happens happen.“ (Greenberg). „It cannot matter what then happens.“ (Atkins).

1667. Davon — 次行と 2 行下の ob を受ける。weiter — 今後は。

1668. künftig — im Jenseits. (Endres).

1668—70. 二通りの解釈が可能。彼岸でも ein Oben (Himmel) と ein Unten (Hölle) があって、それぞれ愛と憎しみが支配しているのかどうか。いま一つは、彼岸は空間と感覚に関して、人間的—地上的な観念に対応しているのかどうか。例えば「母たちの国」について、Mephisto はこう言っている: „Versinke denn! Ich könnt auch sagen: steige! 's ist einerlei.“ V. 6275f. (Arens).

1669f. es gibt et.⁴ 4 格の Ein Oben oder Unten が意味上の主語。in jenen Sphären — 1 行上の künftig のことで、V. 1658 の drüben. vgl. jene Sphäre (V. 767).

1671—73. In diesem Sinne kannst du's wagen. Verbinde dich — Wenn du so denkst, kannst du es wagen, dich mit mir zu verbinden. (Arens). Verbinde dich — Schließe den Vertrag. (Reclam). 命令法。du sollst ... meine Künste sehn — ich will ... dich meine Künste sehen. あなたに ... を見せてあげたい。in diesem Tagen — in irdischen Leben. (Schmidt).

1674. gebe — biete. 次行の geben も同じ。was — 不定関係代名詞。geseh(e)n (hat).

1676. Ward — Würde. eines Menschen Geist — der Geist eines Menschen. das hohe Streben — V. 1591f. と明らかに矛盾する。(Arens). das hohe Streben を救済するものについては、V. 11936f. (Endres). Alexandriner.
1677. fassen — ermessen, begreifen, sich erklären, vorstellen können. (GWb).
1678. Doch — indeed. (Heffner). jedoch. (Arens). Speise, die — 先行詞と関係代名詞。sättigen — satt machen. (Fischer). hast du — Fragezeichen は V. 1685の最後。疑問符のない版もあるが、この疑問符を回って V. 1687まで、十人十色とも言うべき、さまざまな解釈がなされている。例えば：ゲーテ生前の „Faust I” の印刷では、例外なく V. 1685のあとに Punkt がついている。この Punkt はこの部分の詩行を、すべて事実の確認として理解させるものである。Weimar 版は、Punkt の代りに勝手に Fragezeichen をつけた。疑問符はこの部分の詩行を、疑問文の形で語られた要求と偽るものである。あとの版はほとんどすべてこれを引き継いだ。それどころか 5ヶ所も疑問符をつけている版もある。即ち、多くの解説者は、変り易く満たされないもの (das Unbeständig- Unbefriedigenden) に対する、絶望的な要求を見ているのである。V. 1685のあとに Punkt があれば ———— これが正しいと私は思うのだが ———— これらの詩行は、嘲笑う確認の話と見なされるであろう。そのときは V. 1686f. は、絶望した諦めの要求と理解されるだろう。(Schöne).

別の意見：これらの詩行はさまざまに解釈されてきた。V. 1685には今日のすべての版では、疑問符がついている¹。疑問文のあとに同じ意味の要求が続いているので、8 + 2 Verse からなる複雑複合文になる。Mephisto は明白にある役割を理解してそれに答えている (V. 1688ff.). 1808年の初版で、V. 1685のあとについている Punkt は、従って正しいはずはない。けれども疑問文を理解しなかった文献学者たちは、ここで Punkt をつけるのを望んだ。なぜなら彼らは Faust の発言を、悪魔が提供しなければならない、無価値なものの皮肉な確認、と受け取ったからである。(Arens).

¹Arens : „Kommentar zu Goethes Faust I, 1982” のあとに出版された V. Lange (1986)、A. Schöne (1994)、U. Gaier (1999) は、Punkt を採用している。P. Huber (2003) は 5ヶ所に疑問符をつけている (Loeperと同じ)。Düntzer (1850) は Gedankenstrich をつけている。同様に英訳も Atkins, Bruford が Punkt, Luke, MacNeice が Fragezeichen, Greenberg が

Gedankenstrich を採用している。

瞬間の享樂だけが問題である。そのつど直ちに幻滅が続く。従ってこみ上げてくる嘔吐が、新たな感覚の陶醉によって消滅するように、矢継ぎ早に享樂が提供されねばならない。瞬間の享樂は、確かにまだ味わい得る果実ではあるが、内面的には腐敗した果実として、要約して表現されている。そういうわけで Faust は、決して我に帰ることなく、自虐的な考えから解放してくれる享樂生活を、自分に世話してくれるかどうか、と Mephisto に聞いているのである。(Reclam).

1679. rotes Gold — rothe farbe は 3 種類に分けられる。gemein-rothe, bräunlich-rothe, gelb-rothe. rothes gold は詩人の用語で、非常に好まれた表現である。(Grimm). = hochgelbes Gold. あざやかな黄色。(Heyse). rotes Gold, das — 先行詞と関係代名詞。

1680. Quecksilber gleich — Wie Quecksilber. Quecksilber は 3 格。dir in der Hand — in deiner Hand. zerrinnen — sich verlieren, verschwinden. (Heyse).

1681. Ein Spiel — (Hast du) ein Spiel. Spiel — Glücksspiel. 賭けごと。(Arens). dem — 関係代名詞。先行詞は Spiel.

1682. Ein Mädchen, das — (Hast du) ein Mädchen, das. 先行詞と関係代名詞。

1683. Äugeln — äugeln = bedeutsame, meist liebevolle Blicke werfen, austauschen. (GWb). = liebäugeln. (Fischer). 秋波を送ること、色目を使うこと。sich verbinden — flirt with. 火遊びをする。(Heffner). dem Nachbar — (mit) dem Nachbar.

1684. Der Ehre schöne Götterlust — (Hast du) schöne Götterlust der Ehre. Götterlust — hyperbol für höchste (sublime) Lust, seliger Genuß. (GWb). divine pleasure. (Heffner).

1685. Die — 関係代名詞。先行詞は Die Ehre.

1686. Zeig(e) — Mephisto に対する要求。die Frucht, die — 先行詞と関係代名詞。sie — die Frucht. brechen — abbrechen, pflücken. (GWb). ここは = Früchte, die reif vom Baum blinken und schon beim Pflücken faul sind, so daß man nach immer neuen greifen muß. (Arens).

1687. Und Bäume, die — Und (zeige mir) Bäume, die. 先行詞と関係代名詞。ここは = Bäume, die jeden Tag ihr Laub abwerfen und neue Blätter

bekommen. (Arens).

1686f. この要求はすべてを要約している。即ち、享樂は本来欲望の中にあるもので、欲望の実現の中にあるのではない。従って絶えず新たに始めなければならない。Faust は刺激と享樂が絶えまなく継続するその可能性を聞いているのである。ここは Mephisto に対する Faust の挑戦である。Faust 自身は人生の最後に臨んで、筋の運びに正確に一致しているわけではないが、これらの詩行には一致している、一つのレジュメを与えている。vgl. V. 1 1433—39. (Arens).

1690. heran|kommen.

1691. Wo — 関係副詞。先行詞は die Zeit. wir was Guts in Ruhe schmausen mögen — wir bei einem Genuß verweilen wollen. (Arens). was Guts — etwas Gutes. schmausen — festlich oder lecker tafeln. (Fischer).

1692. Werd' ich beruhigt ... legen — Wenn ich beruhigt ... legen werde. beruhigt — ruhig. (GWb). je — zu irgendeiner Zeit. (Fischer). 2行下の je も同じ。Faulbett — Lotterbett. (Fischer). sich aufs Faulbett legen — nichts tun, faulenzten. 瞬間の利己的な喜びによる、完全な満足の象徴。(Thomas). Alexandriner.

1693. sei — 接続法 I。願望。es — 非人称。gleich — sogleich, sofort. es ist um mich getan (= geschehen) = ich bin verloren. (Grimm). ここは = so mag mein Leben gleich ein Ende haben. (Arens).

1694. Kannst du mich ... belügen — Wenn du mich ... belügen kannst. mich schmeichelnd belügen. 甘言で私をだます。(Thomas).

1695. Daß — So daß. mir selbst gefallen — mit mir selbst zufrieden sein. (Arens). mag — (満足) したい。

1696. Kannst du mich ... betrügen — Wenn du mich ... betrügen kannst. betrügen — täuschen. (Fischer). ここは = So daß ich mein Streben aufgebe, am Genuß Gefallen finde und in ihm zu beharren wünsche. (Alt).

1697. Das sei — (So) sei das. Das — 指示代名詞。前行の内容を指す。sei — 接続法 I。Das — に対する要求。ここは = So sei der Tag mein Todestag! (Arens). So mag das für mich der letzte Tag sein.

1698. bieten — anbieten. (Fischer). Topp! — 擬音の叫び声。= schlag ein! 手を打とう。(Fischer). = es gilt! よしきた、合点だ。(Endres). 同意の間投詞。特に保証する Handschlag や、コップの打ち合わせる乾杯の際の間

投詞。(Grimm). Schlag auf Schlag — Handschlag gegen Handschlag, Zug um Zug. Auch Topp! bedeutet : Schlag ein! (Loeper).

この詩行には具体的な解説がいろいろなさされているが、ここでは Heffner の解説を記すことにする。Faust が „Die Wette biet' ich!" と言って、右手を差し出す。その手を Mephisto が „Topp!" と言って、自分の右手でピシャリと叩いて握る。こうして握り合った二つの右手の上を、Faust がすぐに „Und Schlag auf Schlag!" と言って、左手でピシャリと叩いて握る。

1692—98. Faust は自分の自我に不満であると主張するけれども、自我が常に同じままであることに、最大の価値を置いている。彼は自分の不満さえも、味わうことができるのである。vgl. V. 1635. Faust が出す条件は、二つではなく一つである。なぜなら V. 1692, 94f., —96 は同じことを、即ち、満足を知らないことから生じる、持って生れた Streben の停止、活動の停滞、従って本来の人生の停滞を言っているのだから。従って Faust には、まさに時計の停止こそがふさわしい。Faust はその止めることのできない暗い Streben に於て、常に彼自身のままであろうという信念、ゲーテ風には、彼の Entelechie は変り得ないという信念だけを述べる。彼はそれなくしては Faust たり得ないこの信念に、生成を否定する霊との、停滞と無の霊との賭という形を与えるのである。この賭はつまるところ、自分自身との賭である。(Arens).

1699. Werd' ich ... sagen — Wenn ich ... sagen werde. zum Augenblicke — dem Nichtigsten und Flüchtigsten. (Arens). der erfüllte, höchste Augenblick (gegen den neutralen, indifferenten Zeitstrom). (GWb).

1700. Verweile — Augenblick に対する要求。verweilen — (eine Weile) säumen, stillstehen. (Fischer). so schön — so は最高の程度の高さを表わすものと思われるので、unglaublich が適当か。信じられないほど美しい、夢のように美しい。その方が結末にもふさわしいように思われる。ここの英訳は : „Tarry, remain! You are so fair!" (Atkins), „Linger a while, oh how lovely you are!" (Greenberg), „Beautiful moment, do not pass away!" (Luke) などであるが、Gemüt が足りないように思われる。この 2 行は結末の V. 11581f. で、Faust の口からほとんどそのまま繰り返される。(Witkowski).

1701. magst — 許可。V. 1703, —05 の mag も同じ。jn. in Fesseln schlagen

- (legen). 人を鎖につなぐ。
1702. zugrunde geh(e)n — 破滅する。Faust が彼岸を信じていないので。
(Düntzer). zu Grunde の版もある。
1704. frei — 免れた。古い用法では frei は、よく 2 格と共に用いられた。
この 2 格は von や vor で置き換えることができる。(Grimm). = Dann bist
du frei von deinem Dienst.
1705. Die Uhr mag stehn, der zeiger (mag) fallen — 時計が壊れると、2
本の針は 6 時のところに落ちるといふ説と、一本しかない針 (der Zeiger
= Sg.) が、24 時間毎に下に落ちた、中世の水時計という説がある。Schöne
はむしろここは、時計が無力になることに対する隠喩、時計のメカニク
には無頓着な、詩的な隠喩として、理解すべきであろうと言う。
1706. Es — 形式上の主語。die Zeit が真の主語。sei — 接続法 I。die Zeit
に対する要求。英訳では: „And time at last for me be over!“ (Atkins),
„And time come to an end for me!“ (Luke), „And time and tide may cease
for me!“ (Bruford).
1707. Bedenk(e) — Faust に対する命令法。es — 上述の Faust の言葉。
次の 's も同じ。
1708. Dazu — 前行を指す。この詩行は = natürlich. 言うまでもない。
(Arens).
1709. freventlich — leichtfertig, unbesonnen. (GWb). sich vermessen — sich
erkühnen, sich herausnehmen. (Fischer). 敢て軽率に振舞ったのではない。
現在完了。
1710. Wie — Sobald. (Arens). beharren — aufhören, vorwärtszustreben.
(Fischer). Wie ich beharre — Indem (oder Sobald) ich in Zufriedenheit
verharre. (Schöne).
1711. Ob dein, was frag' ich, oder wessen — Ich frage nicht, ob ich dein
Knecht bin oder wessen Knecht ich bin. was frage ich = ich frage nicht.
問題ではない、どうでもよい。z. B. nach etwas fragen = sich um etwas
kümmern. was frag ich viel nach geld und gut? = sie kümmern mich gar
nicht. (Grimm).
1712. Ich werde — Ich will. gleich — sogleich. Doktorschmaus — 博
士号取得の祝賀会。16、17 世紀には Doktor の学位を取得すると、学部の
全教授も祝賀会に招待した。そのとき Mephisto は、例えばその Doktor に

贈物をするとか、全員に特別なワインを贈るとかして、Faustの手助けを
すると約束するのである。(Trunz). この語は恐らく Studierzimmer I と II
の間に計画されていた、Disputation の場を暗示するものであろう。vgl.
Paralipomena 14—20. (Erler).

1714. eins ——— eines. 基数の名詞的用法。一つのこと。Um Lebens oder
Sterbens willen ——— für alle Fälle. 念のために。同時にしかし文字通りに
理解しなければならない。(Arens).

1715. sich³ et. aus|bitten. 請い求める。ein Paar Zeilen ——— schriftliche
Fixierung der Abmachung の意。(Arens). 目的は V. 11612f. で明らかになる。
(Witkowski).

1716. was Geschriebnes ——— etwas Geschriebenes. 書かれたもの。Pedant —
— Kleinigkeits- od. Umstandskrämer. (Fischer). 法学をも学んだ Faust が、
生死に関する契約の証文を求める Mephisto を、Pedant と罵るのは、学ん
だ学問が Faust には何の影響も与えていないことを示している。(Arens).

1717. 永遠の Treue に対する Faust のこの思いがけない賞讃は、Gretchen の
„König in Thule" の歌と対をなすものであり、Faust 自身に、また Gretchen
に対する彼の将来の態度に、いかにも彼らしい光を投げるものである。
(Arens). 現在完了。Alexandrinier.

1718f. Ist's ——— Ist es. es は daß 以下。Auf ewig soll ... schalten ——— Auf ewig
... schalten soll. mit meinen Tagen schalten ——— über meine Tage gebieten,
herrschen. (Heyse). soll ——— rhetorisch な用法で、訳す必要はない。

1720. Rast nicht die Welt ... fort? ——— Rast die Welt ... nicht fort? Ras't の版も
ある。fort|rasen = immer weiter rasen. (Fischer). in allen Stromen ———
überall stromweise fortgehend. (Düntzer).

1721. Und mich soll ——— Und (dennoch) soll mich. soll は rhetorisch な疑問。
halten ——— festhalten.

1722. dieser Wahn ——— 永遠に変化して止まぬこの世界の中で、約束が守ら
れ得るという考えは妄想である。だが我々の心の中のあらゆる人間的なも
のが、この妄想を肯定する。(Petsch). uns ins Herz ——— in unser Herz.
状態受動。

1723. Wer mag sich gern davon befreien? ——— Niemand mag sich gern davon
befreien. mag ——— 好む。davon ——— da は前行の dieser Wahn.

1724. Beglückt, wer ——— Glücklich ist derjenige, der. wer Treue rein im Busen

- trägt — wer treulich seine Verpflichtungen zu erfüllen trachtet. (Alt).
1725. je — zu irgendeiner Zeit. (Fischer). gereuen — reuen を強めたもの。後悔させる。(Grimm). ここは = Kein Opfer wird ihm zu groß sein. (Alt).
1726. ein Pergament, beschrieben und beprägt — ein Pergament, das beschrieben und beprägt (mit dem Wachssiegel) ist. 口頭の約束よりも証文の方が、一層確実に束縛するかのような妄想に対する嘲笑。(Trend.).
beprägen — mit einem Siegelaufdruck versehen. (GWb). mit Siegel versehen. (Fischer). Alexandriner.
1727. dem — 関係代名詞。先行詞は Gespenst.
1728. ここは言葉は生きているが、羊皮紙に書かれた文字と封印は、死んでいるということ。(Königs).
1729. Die Herrschaft führen — herrschen. Wachs und Leder — (mit Wachs, Siegelwachs) besiegelte Urkunden (auf Pergament). (Schröer).
1731. Erz — Metall, als Sinnbild für Festigkeit, Dauerhaftigkeit, Stärke. (GWb). この行の名詞は4格で、前行の Was の内容。
1732. Soll — 相手の意向を聞く場合。Griffel — graphium, stilus. 鉄筆、石筆。(Grimm).
1733. frei|geben = freistellen, überlassen. 任せる、委ねる。(Fischer).
1734. Wie — Warum. magst — 好む。Rednerei — redekunst. 巧みな弁舌。嘲笑という副次的意味がある。(Grimm).
1735. Nur — 強調の意。gleich — sogleich. so — in solcher Weise.
1736. Ist doch ... gut — Da jedes Blättchen doch gut ist. どんな紙片でもよいのに。
1737. Du unterzeichnest dich — 直接法現在による命令。Alexandriner.
1738. dies — 前行の血で署名すること。jm. Genüge tun.
1739. mag — してもよい、構わない。es — 前行の dies. Fratze — Posse. 馬鹿げた振舞、茶番。(Fischer). 英訳では: „One may as well pander to your fad." (MacNeice).
1740. ein ganz besondrer Saft — Mephisto にとって重要なのは、専ら „ganz besondrer Saft" である。なぜなら V. 11612f. が示しているように、肉体を離れようとする魂が、„den blutgeschriebnen Titel" (権原) に気づいて、書かれたものによって、自分が拘束されているのを感じるからである。Volksbuch では Faust は証書を全部自分の血で書かねばならない。しかし

ここでは血で署名するだけで十分である。vgl. 5. Mose 12, 23: „Denn das Blut ist die Seele.“ (Arens).

Puppenspiel で表現されているように、Faust は指に傷をつけて署名する。(Düntzer). V. 1739—40の間で、Faust は署名して Mephisto に手渡す。Mephisto はそれを胴着にしまう。(Witkowski).

1741. Nur keine Furcht — (Du brauchst) nur keine Furcht (haben). Nur — — 強調の意。全く。keine Furcht = keine Angst.

1743. das, was — 不定関係代名詞が先行詞 (指示代名詞) をとる例。

1744. sich blähen — sich in dückelhaftem Stolz erheben, sich wichtig tun. (GWb). zu hoch — dem Erdgeist gleich. (Heinemann). 現在完了。Faust の地霊体験と、地霊の仮借ない言葉: „Du gleichst dem Geist, den du begreifst, nicht mir.“ が Faust の心に劣等感を生む。この劣等感が Faust に探究と思索を断念させる。しかし心理学的な意味での補償として、今度は享樂に没頭することになる。(Endres).

1745. in et. gehören. 或る事に属する。

1746. Der große Geist — Erdgeist. (Trunz).

1747. die Natur — Erdgeist. (Arens).

1748. Des Denkens Faden — Der Faden des Denkens. 現在完了。自然はその最も奥深い創造する力への洞察を、もはや Faust に許さない。V. 382f. の最終的な断念。(Petsch).

1749. Mir ekelt lange vor = Es ekelt mir lange vor. 倒置による非人称 es の省略。lange には同意し難い。せいぜい Faust がそう思うにすぎない。V. 1744—49 の決定的に否定的な断言は、文章論的には結びついておらず、一つの Satz、一つの Vers がそれぞれ登場している。即ち、これらの詩行は、切れぎれに口をついて出たもので、言わば内面の崩壊と、引き裂かれた思考の糸の表現である。ここに認識の Streben から、享樂の Streben への急激な変化が現れている。(Arens).

1750f. Laß — du に対する命令法。Uns — 4 格。Faust と Mephisto の二人。(お前と) 一緒に燃える情熱をしずめよう。

1752. undurchdrungen — undurchdringlichen. (Düntzer). 見抜けない、底の知れない。

1753. Sei — 接続法 I。要求。= Möge jedes Wunder gleich bereitstehen!

1748—53. この 6 行の脚韻は、Knittelvers が要求するような Paarreim ではなく

- て、Schweifreim (a a b c c b) になっている。(Ciupke).
1754. Stürzen — 接続法 I。wir に対する要求。sich in et. stürzen. 我々 (Faust と Mephisto) は ... の中へ飛び込もう。Faust の決意は、唯一の Daktylus によって表現されている。(Ciupke).
Stürzen wir uns in das Rauschen der Zeit.
1755. das Rollen — bildlich, vom unaufhaltsamen Fortschreiten des Weltgeschehens. (Fischer).
- 1756—58. Da ... denn — So ... denn. そしたら。mag — kann, möge. 願望。(交互に) やってくるがよい。Mit einander — Miteinander の版もある。wie es kann — できる限り。= wie sie (wechseln) können. es = sie (Schmerz und Genuß, Gelingen und Verdruß).
1759. der Mann — der echte, tüchtige Mann. (Thomas).
- 1755—59. Freie Verse, gereimt. (Ciupke).
1760. Euch — 3 格。Maß und Ziel — grenze. (Grimm). Euch ist kein Maß und Ziel gesetzt.
- 1760—1867. Madrigalverse. (Ciupke).
- 1761f Beliebt's Euch — Wenn es Euch beliebt. 気が向いたら。Euch は 3 格。es は非人称。überall zu naschen と Im Fliehen etwas zu erhaschen の二つの zu 不定詞句は、次行の was Euch ergetzt と同じく、Bekomm' Euch の主語。
1763. Bekomm' — Bekomme. 接続法 I。要求。Euch — 3 格。wohl — gut. ここは = Möge es Euch wohl bekommen! どうぞたっぷり召し上れ。もちろんここは比喩的な意味。was — 不定関係代名詞。あとの Euch は 4 格。ergetzt — ergötzt.
1764. Nur — 命令を強める副詞。greift ... zu — Ihr に対する命令法。zu|greifen. さっと手を出してつかむ。mir — 関心の 3 格。いいですか、本当に ... するんですよ。seid — Ihr に対する命令法。blöde — schüchtern, scheu, zaghaft, feige. (GWb).
1765. Du hörst ja — Ich habe ja gesagt. Wie du mich hörst. Freude — Vergnügen, Lust, Wonne, Spaß, Genuß. 楽しみ、喜び。(GWb). von et. die Rede sein. Rede は前行の blöde と押韻する。(Heffner).
- 1766f. Taumel — uneigentlich, eine sinnliche oder seelische erregtheit oder entzückung, bei der man wie berauscht seiner sinne nicht mehr oder nicht

ganz mächtig ist. (Grimm). sich weihen — sich verehrungsvoll hingeben. (Fischer).

ここで四つの事柄が数えあげられているのか、それとも „dem schmerzlichsten Genuß" は、„Taumel" に対する説明的同格なのか、或いはこの三つの Oxymora (矛盾語法) が、三つとも説明的同格なのかどうか、見きわめるのは難しい。Faust が „dem Taumel weih' ich mich" と言うとき、これは „glühende Leidenschaften stillen" (V. 1751) と同様に、意図しては実行できない決意である。Taumel と呼ばれるものは、陶酔とか麻醉によってのみ生じるものだから。

この Taumel は、V. 1754f. が „rauschen" や „Rollen" によって暗示しているものに対応している。しかし今はもう Faust は、これから自分が感じることは、Schmerz と Genuß, Liebe と Haß, 喜ばせるものと不愉快なものといった、溶け合うことのない、異質なものの混合になるだろう、従って必ずしも通常の意味の Genuß にはならないだろう、ということを知っていると思っている。(Arens).

1768. Busen — Herz. (Fischer). Mein Busen = Ich. Wissensdrang — wenn die neugier sich auf ernsthafte dinge richtet, dann nennt man sie wissensdrang. (Grimm). 状態受動。V. 1766ff. は V. 464ff. に対応する。(Buchwald).

1769. Soll keinen Schmerzen... — Soll sich künftig keinen Schmerzen verschließen. ここは = Ich will mich künftig keinen Schmerzen verschließen. sich et.³ verschließen.

1770. was — 不定関係代名詞。Menschheit — ここでは古い意味の Menschenwesen, Menschsein. 人間であること、人間の本質の意。ゲーテの時代は、Summe der Menschen (人間全体) の意味への過渡期で、ゲーテはたいていこの古い意味で用いている。ここでも古い意味。この詩行は = was dem Menschen allgemein zugeteilt ist. 人間一般に与えられているもの。(Trunz). 状態受動。

ゲーテは „Fragment" (1790年) に於て、公にされていたこの場面を、ここに結び付けている。飛躍は明らかである。一致しない矛盾という意味ではないが、突然の気分の変化という意味で。この気分の変化の原因はありそうにない。先ほど価値ある人生の可能性に絶望していた Faust は、今度は人間の運命全体を味わい尽くすことに、最高の価値を与える。

(Heinemann).

1771. genießen — in sich aufnehmen, verarbeiten. 味わう、消化する。この語はゲーテの場合、この古い意味と、快感を取り込むという新しい意味との間で揺れている。ここでは古い意味。(Trunz). die menschheit will er genießen — alles menschliche sich aufs tiefste zu eigen machen, an stelle des bloßen wissens und denkens. (Grimm).
1772. greifen — 前行の Will にかかる。次行以下の häufen, erweitern, zerscheitern も同じ。greifen は häufen と押韻する。(Heffner).
1773. Ihr — 3行上の Menschheit の所有代名詞。次行の ihrem も同じ。
1774. so — in dieser Weise. erweitern — 無限に自己を拡大するという考えは、若いゲーテのお気に入りの観念であった。vgl. „Vermögt ihr mich auszudehnen, zu erweitern zu einer Welt?“ (Prometheus, 1773年)、„Und dieses enge Dasein hier / Zur Ewigkeit erweitern.“ (Künstlers Abendlied, 1774年)。(Thomas).

ゲーテは V. 1770—75 に於て、言わば自らの青春時代の巨人的な、偉大な個人の全体性の計画を — 実現されることのない不遜な要求として — 引用している。すでに „Italienische Reise“ (1787年) では、次のように書かれている: „daß jeder einzelne Mensch nur als ein Supplement aller übrigen zu betrachten sei.“ W. M.s Lehrjahre (1796年) のある神父の言葉: „Wer alles und jedes in seiner ganzen Menschheit tun oder genießen will, wer alles außer sich zu einer solchen Art von Genuß verknüpfen will, der wird seine Zeit nur mit einem ewig unbefriedigten Streben hinbringen.“ (Schöne).

1775. sie — V. 1770の die ganze Menschheit. zerscheitern — durch Scheitern zerschellen. (Königs). in Scheiter zerfallen, scheiternd zu Grunde gehen (das Schiff ist zerscheitert). (Heyse). ここは V. 719で毒を仰ぐときと同じである。従って Faust はこの点で Mephisto のニヒリズムに極めて近い。(Buchwald). zerschlagen についての Faust の言葉は、彼の一切を味わうプログラムに、より高い厳粛さを与えることになる偽の英雄的な身振り (V. 3364f.) に過ぎない。(Arens).

Faust はその精神によって、人間性の最高にして最深の刻印を捕え、我がものとし、人類の禍福を体験しつつ自ら担うことを望む。否、統合しようとする。その結果彼は結局のところ、「彼自身の自己を人類の自己に拡

大する」ことになる。従って彼は自らのうちに、人類の運命を甘受する、というよりもむしろ人類が統一されて、「人間」Faustの中に現われることになる。ここでは人間はむしろ、彼が存分に楽しむ体験の目的にすぎないのであって、彼の参加の目的ではない。彼は人間のために存在しているのではなくて、人間が彼のために存在しているのである。(Arens).

1776. glaube mir — 私の言うことを信じよ。2行下の Daß 文が補足語。der — 関係代名詞。先行詞は mir. manche tausend Jahre — 4格。

1777. harte Speise — das Wesen der Menschen und ihres Lebens. „Prolog" では人間を wunderbarlich だと言っている。V. 282. (Arens). = Welt. vgl. Sprichwörtlich: „Die Welt ist nicht aus Brei und Mus geschaffen, ... / Harte Bissen gibt es zu kauen." (Schmidt). an et.³ kauen.

1778. „Fragment" では „Daß in der Wieg' und auf der Bahre." (Witkowski).

1779. den alten Sauerteig — V. 1770 の „was der ganzer Menschheit zugeteilt ist" の意味。これが同時に悪魔が噛んでいる „harte Speise" であるなら、そして「神のためにのみ作られている」„dieses Ganze" であるのなら、この全体は小宇宙に還元されて、人間に割り当てられている、ということが明らかになる。(Gaier). Arens は Traumann の以下の見解を支持する: „er (Faust) möchte den „alten Sauerteig" der Schöpfung verdauen! Die Menschheit als Ganzes, ihre gesammte Mitgift will der Einzelne genießen! Das geht über die Kräfte und Künste des Teufels, das ist nur einem Gott vorbehalten."

1780. Glaub(e) — 命令法。unsereinem — wir の2格 unser に、不定代名詞 einer の3格がついた形。我々のような者の言うことを信じよ。dieses Ganze — die Welt als Ganzes. (Trend.).

1781. 状態受動。

1782. Er — Gott. 次行の er も同じ。

1783. Uns — Mephisto の一族。Mephisto は „Dichtung u. Wahrheit" 第8巻末の世界の起源についての教義を、いかにも彼らしく変えながら、自らの形而上学を展開させている。(Buchwald). 現在完了。

1784. euch — 3格。einzig — only. (Thomas). Tag und Nacht — Licht und Dunkel の比喩。(Endres). Gutes und Böses, Lust und Leid, Götterlust und Höllenqual の交替。(Königs).

1785. Allein ich will — Allein ich will (der Menschheit Wohl und Wehe auf

meinen Busen häufen). (Trend.). 初めて Faust は、こうした簡潔な形できっぱりと自分の意志を公言する。彼は制約という他人と同じ掟が、自分に適用されるのを拒否する。これは最初から彼の特長を示している尊大な要求であり、彼の本質が変わってはいないことの新たな証拠である。(Arens). Das läßt sich hören — that sounds plausible. それは尤ものように思われる。(Thomas).

1786. einem — 基数の名詞的用法。ein(e)s (一つのこと) の 3 格。Einem の版もある。es ist mir vor et.³ bang(e). 行末には Doppelpunkt の他に、Semikolon のついた版もある。
1787. V. 558f. と同じ意味の Hippokrates の引用。これは Faust の目的は生活の中ではなく、芸術の世界でのみ実現されるということを行うためである。(Arens).
1788. dächte, liebet — 共に接続法 II。現在、外交的表現。sich belehren lassen. 人の教えを受け入れる、忠告を聞く。
1789. Assoziieren Euch — Ihr に対する命令法。次行の Laßt も同じ。sich mit jm. assoziieren (= verbinden). (Fischer). 行末に Punkt のついた版が少しある。
1790. den Herrn — 前行の Poet.
1791. Qualität — auszere oder innere eigenschaft. (Grimm). alle edlen Qualitäten は V. 1793—96 を指す。
1792. Ehrenscheitel — das mit dem Lorbeerkrantz geschmückte Haupt. (Erler). Auf Euren Ehrenscheitel — Zu Eurer Ehre auf Euren Scheitel. あなたの名誉としてあなたの頭上へ。(Petsch).
1793. Des Löwen Mut — den Mut des Löwen.
1794. Des Hirsches Schnelligkeit — die Schnelligkeit des Hirsches.
1795. Des Italieners feurig Blut — das feurig(e) Blut des Italieners.
1796. Des Nordens Dau'rbarkeit — die Dauerbarkeit des Nordens. Dauerbarkeit — Dauerhaftigkeit, ausdauerndes Wesen. ゲーテの造語。(Fischer). des Nordens — der Norde の弱変化 2 格の形。Pl. は die Norden. (Heyne.) der Norde — (Bildg. des 18. Jhdts., zuerst bei Goethe nachgewiesen) = Nordländer. (Fischer).